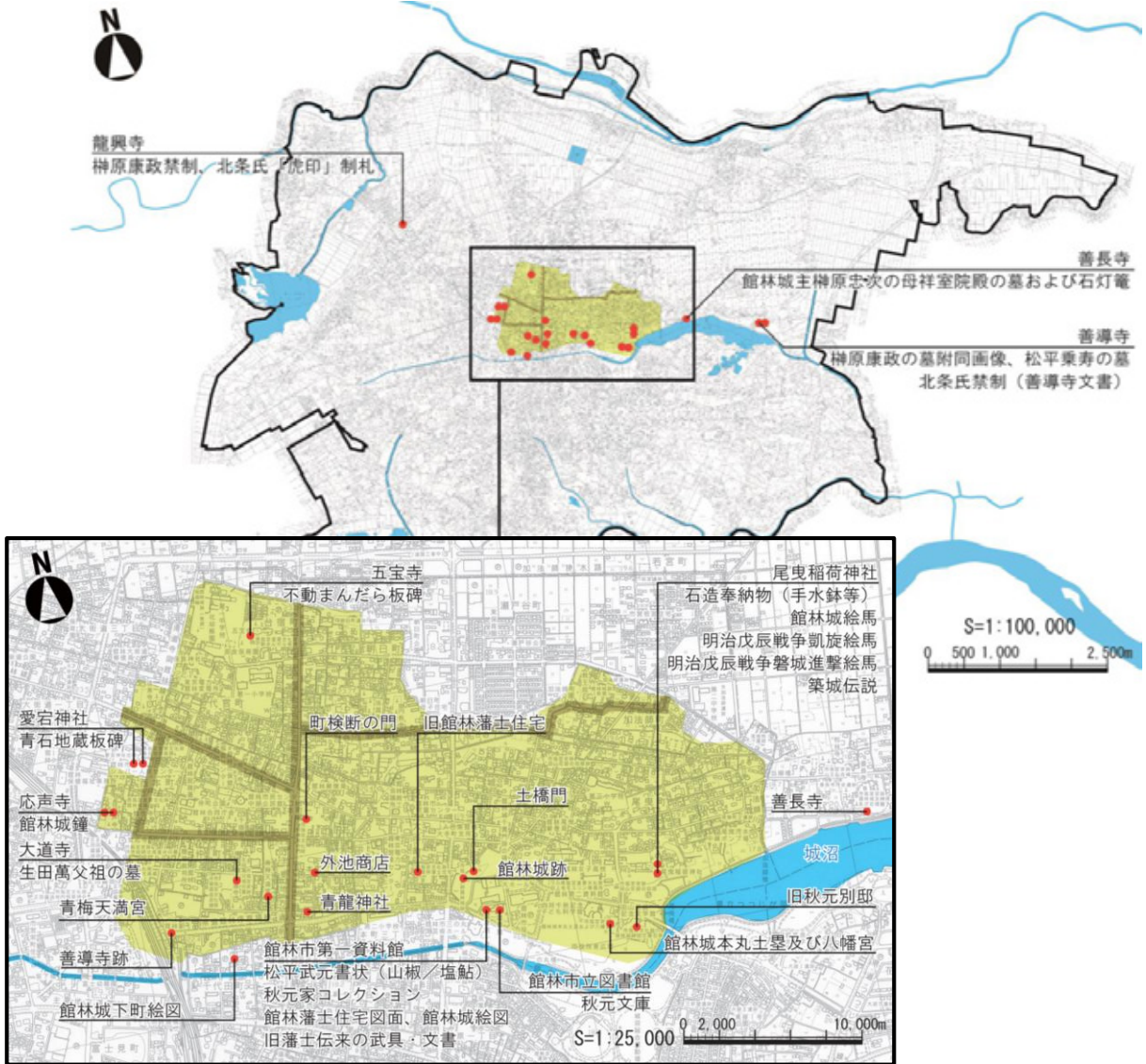
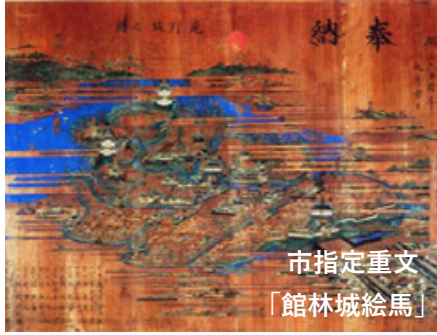




(6) 近郊都市文化の賑わい



国登録有形文化財「旧館林二業見番組合事務所」

鉄道の開通により、本市と東京とは近世以前と比較にならないほどの速いスピードで行き来が可能となった。その影響は多岐にわたり、産業の発展と相まって、本市は近世の城下町から近代の近郊都市へと変化を遂げた。

東京方面から多くの行楽客が館林を訪れるようになると、それらの人々を相手にした土産物屋や、仕出し弁当などを提供する料理屋が市内に増え、城沼の渡船も躑躅ヶ岡や尾曳稲荷神社を訪れるための観光利用が盛んになった。

また、日清製粉や上毛モスリンなどの産業の発達に伴って、これらの工場や事務所で働く勤め人が増加した。それらの人々は、市街地を暮らしの場とする新たな都市生活者であった。その生活に利便を提供する銭湯の増加や、娯楽を提供する映画館やカフェの出現など、市街地にも変化が現れた。また、企業などの接待、行楽客のもてなしの場として花街もでき、華やかな時代を迎えた。

本市出身の文豪^{たやまかた}田山花袋の作品にも描かれる、近代化していく近郊都市館林の賑わいと、その華やきを今に伝える歴史文化を、本市の特色を物語る関連文化財群として捉えた。

<関連文化財群を構成する主要要素>

項目	モノ・コト（指定・登録・消滅・未指定）	ヒト
鉄道	東武鉄道、駅舎（館林駅、 ^{ふじのふもと} 茂林寺前駅、 ^{なると} 多々良駅、 ^{なるしま} 成島駅、 ^{わたらせ} 渡瀬駅）、 渡良瀬川鉄橋、変電所、館林駅周辺の倉庫群	^{ねづ あいちろう} 根津嘉一郎
娯楽	^{きゅうふく} 旧館林二業見番組合事務所、 ^{ふくぎ} 富貴座十五周年記念碑、 料理屋・割烹旅館（ ^{うおそう} 魚惣本店、 ^{ふくし} 福志満旅館、旧清和園）、 ^{せんとう} 銭湯（ ^{うめのみ} 梅乃湯）、 芸能（館林音頭、館林小唄、 ^{うた} 芸妓舞踊（ ^{ぶんふく} 「分福茶釜」）	^{いしじま} 石島コト ^{いしじま せんきち} 石島専吉 ^{いとう ちゅうざぶろう} 冢富忠三郎



『花の都 上州大観』昭和9年（1934）

(7) 近現代の芸術と文化



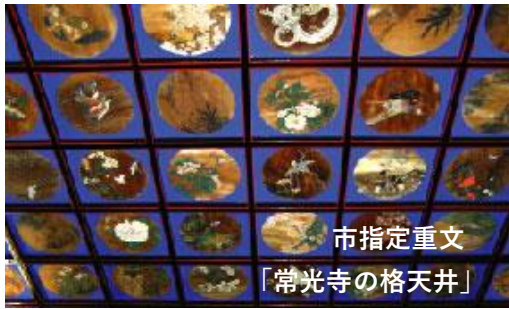
明治の新時代が訪れ、産業の発達や鉄道の開通によるまちの発展とともに、館林市は多彩な芸術家を輩出した。代表的な人物として、日本文学史に「自然主義」の時代を築いた明治の文豪田山花袋、近世から近代にかけて活動した浮世絵師北尾重光、南画の大家小室翠雲などがある。

これらの作品や活動の足跡、あるいは作品のモチーフは、本市を含む両毛地域や利根川対岸の埼玉県北部にも多く残されている。これは、本市が「境目」の地域、交通の要衝として様々な地域と密な交流を持っていたことの、一つの表れと見ることができる。

主に近世の終わりから近現代に活躍した本市にゆかりのある芸術家とその作品、それらに関わる歴史文化を、本市の特色を物語る関連文化財群として捉えた。

<関連文化財群を構成する主要素>

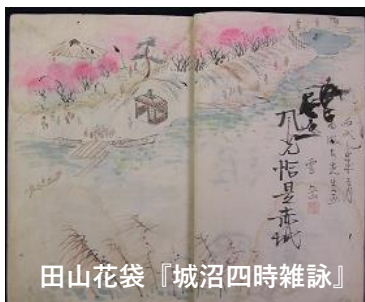
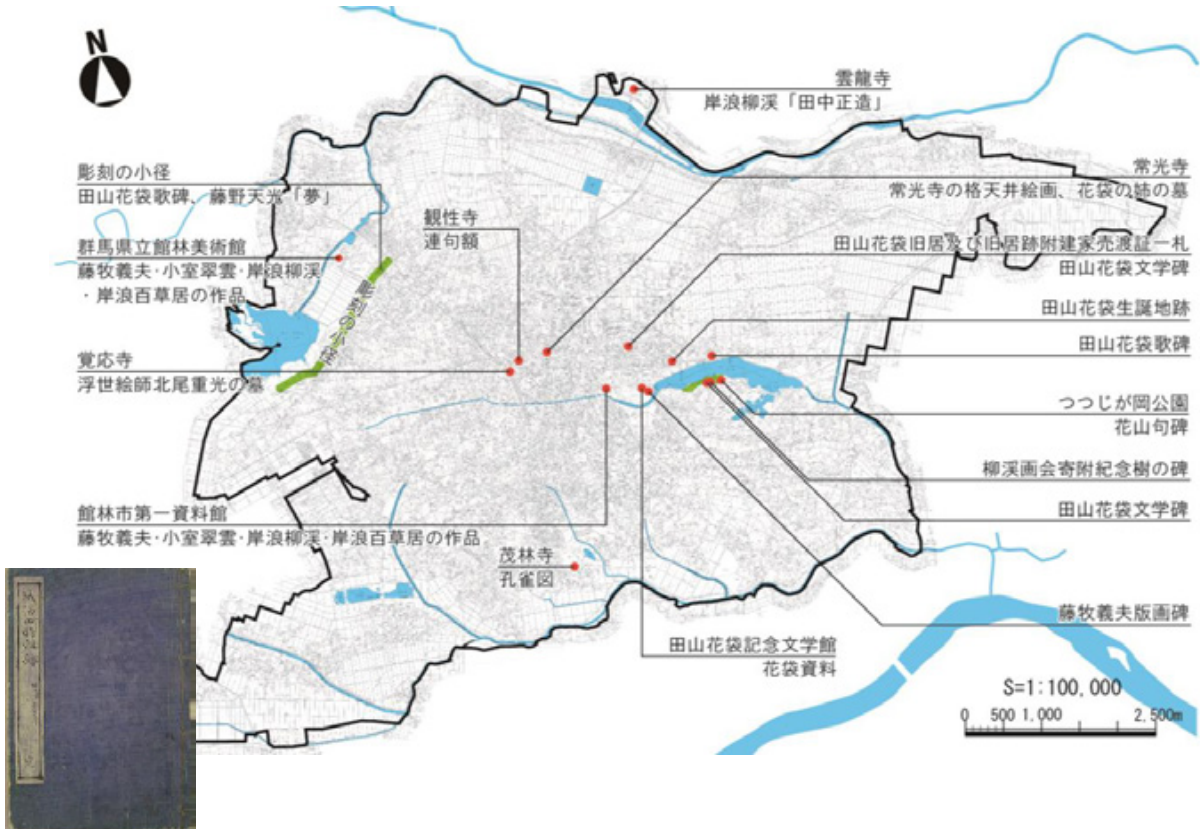
項目	モノ・コト（指定・登録・消滅・未指定）	ヒト
近現代の 芸術と 文化	【田山花袋】田山花袋旧居及び旧居跡附建家売渡証一札【市】、 原稿「ふる郷」他、花袋の姉の墓(常光寺)、田山花袋生誕の地、 田山花袋歌碑、文学碑、田山花袋記念文学館収蔵資料 【北尾重光】浮世絵師北尾重光の墓【市】、相撲絵馬（正田記念館蔵） 【小室翠雲】常光寺の格天井絵画【市】、「孔雀図」（茂林寺蔵）、 「溪山幽邃図」 【岸浪柳溪】柳溪画家寄附記念樹の碑、「田中正造画幅」（雲龍寺蔵） 【藤牧義夫】藤牧義夫版画碑、「城沼の冬」（県立館林美術館蔵）、「隅田川絵巻」 【荒井閑窓】旧対松亭、観性寺連句額、資料館蔵俳画作品、花山句碑 【藤野天光】「ああ青春」、「光は大空より」、「時のながれ」、「人生」、「夢」	北尾重光 田山花袋 小室翠雲 岸浪柳溪 岸浪百草居 荒井閑窓 藤牧義夫 藤野天光



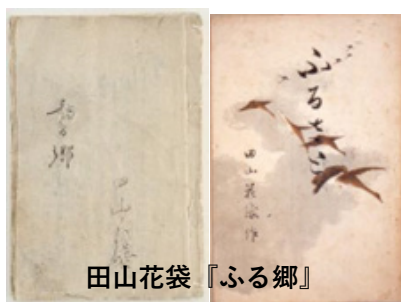
市指定重文
「常光寺の格天井」



小室翠雲画「邑楽公園躑躅岡之図」



田山花袋『城沼四時雑詠』



田山花袋『ふる郷』



彫刻の小径



市指定史跡
「浮世絵師北尾重光の墓」



小室翠雲



岸浪柳溪



藤牧義夫

(8) 躑躅ヶ岡と館林の行楽文化



躑躅ヶ岡（ツツジ）

本市最大の観光資源として現在も多くが行楽客が訪れる躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）は、中世の頃から自生のツツジ群落として存在し、江戸時代には歴代の館林城主によって保護・育成された。庶民も花見を楽しんだ記録が残されており、古くから地域の人々に愛された場所であった。

明治に入って一時荒廃したが、地域の人々や群馬県令榎取素彦などの尽力で復興を果たした。それ以後、鉄道の延伸により東京など遠方からも多くの行楽客が訪れる名所となった。『分福茶釜』伝説ゆかりの地である茂林寺や、「館林城築城伝説」が伝わる尾曳稲荷神社など市内の名所と合わせ、今も躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）には毎年多くの人が訪れている。

主に近世から近代に由来を持ち、鉄道など交通網の発達によってさらに発展した躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）を始めとする館林の行楽に関わる歴史文化を、本市の特色を物語る関連文化財群として捉えた。

<関連文化財群を構成する主な構成要素>

項目	モノ・コト（指定・登録・消滅・未指定）	ヒト
名所・行楽地	「躑躅ヶ岡」【国】、つつじが岡公園、つつじ、つつじまつり、躑躅岡公園碑、城沼の渡船、愛宕神社の老杉、館林八景、館林八勝、お辻・松女の墓、つつじが岡の伝説	榎取素彦 照憲皇太后
社寺と祭り	龍興寺、常楽寺、普済寺、茂林寺、分（文）福茶釜伝説、徳川家光朱印状写、後柏原天皇綸旨、普済寺の銅鐘【市】、尾曳稲荷神社（尾曳講）、善長寺（十一面観音の縁日）、深詣寺（日限地藏の供養祭）、富士嶽神社（初山大祭）、駒方神社（弓取式）、子権現（大祭）	安楽岡善平 杉本八代 田山花袋 巖谷小波



つつじが岡公園と城沼



つつじまつり



お辻・松女の墓



茂林寺



分福茶釜



富士嶽神社の初山大祭（花山町）



普濟寺



常楽寺



子神社（奉納された草鞋）

第5章 館林市の歴史文化の保存・活用

1 文化財の保存・活用の問題点と課題

本市の歴史文化を保存・継承・活用し、さらにまちづくりなどの他分野でも活かしていくための問題点と課題について、策定委員会の審議や作業部会による検討、本構想策定に伴い実施したアンケートの成果などに基づき、以下の性格ごとに整理した。

- A** 文化財の保護・管理に関わるもの
- B** 文化財の保存整備に関わるもの
- C** 調査・研究に関わるもの
- D** 文化財の普及・啓発に関わるもの
- E** 保存・活用を行うための組織・体制に関わるもの
- F** 文化財関連施設の運営に関わるもの

課題の性格	問題点	課題
A 文化財の 保護・管理に 関わるもの	【各未指定（未登録）文化財】 ・これまで行政の支援を受けず、地域社会などが主体で管理してきた未指定（未登録）文化財について、人口の減少や高齢化の進行などにより、従来の管理ができなくなる恐れがある。 ・担い手の不足により、祭りや行事の断絶、伝統技術や伝統芸能の消滅、景観の悪化、有形文化財の損壊や紛失などが懸念される。	未指定（未登録）文化財の保護の強化
	【文化財管理者・所有者等】 ・現在、指定（登録）文化財の修繕や環境整備に一部支援や補助制度が設けられているが、今後の制度運用や未指定（未登録）文化財への支援拡充などについて、検討する必要がある。	文化財所有者や関係団体への支援の充実
	【文化財の管理】 ・各指定・登録文化財について、将来的な保存管理や活用の方針を定める保存活用計画が策定されていない。 ・個人所有や社寺所有の文化財については、現状把握についても不十分である。	文化財の適正な管理
	【文化財の防犯・防災体制】 ・個人所有や社寺所有の文化財の防犯・防災体制について、把握が行われていない。 ・文化財の防犯・防災体制が未整備なものも多い。	文化財の防犯・防災対策

課題の性格	問題点	課題
B 文化財の 保存整備に 関わるもの	【各文化財（特に中心市街地）】 ・中心市街地の歴史的な価値を有する建造物について、空き家化や各種事業に伴う取り壊しの動きが見られ、観光資源としての活用と併せた保存策を検討する必要がある。 ・長期的なまちづくりや活性化には市民の協力が不可欠であり、それらとの連携構築や活動の支援が必要である。 ・市民やまちづくり事業担当課等との意見調整を行い、必要とされる対策を随時把握する体制が求められる。	まちづくり 事業との連携
	【文化財建造物】 ・茅葺屋根の葺き替え、耐震化、その他の改修や補強など、建物の保存管理や安全な公開に支障が生じている、または将来的に生じる恐れがある。 ・伝統的な技術や、茅や楮など保存修理に必要な原材料を使った文化財建造物の補修・改修作業について、将来的に実施が困難になる恐れがある。	文化財建造物の 補修・改修
C 調査・研究に 関わるもの	【各文化財】 ・埋蔵文化財保護の基礎資料である遺跡台帳が長く更新されておらず、現況が反映されていない。 ・社寺や個人所有の文化財や芸術作品の現況把握が十分でない。 ・旧城下町地域に比べ旧農村地域の文化財把握、調査が十分でない。	文化財に関する 調査と状況把握
D 文化財の 普及・啓発に 関わるもの	【各文化財】 ・文化財についての市民の認知度が低い。また、市内外に館林の文化財の価値や魅力が十分に知られていない。 ・学校や各種団体に対する文化財の貸出や、講師（職員）派遣による学習支援の制度があるが、利用する団体（学校）が限定されており、周知の強化が必要である。	文化財の価値や 魅力に関する 周知の強化
E 保存・活用を 行うための 組織・体制に 関わるもの	【教育委員会】 ・文化財行政を専門的、長期的に担う専門職員が不在。 ・文化財の保存、活用について、観光面なども含めて総合的なマネジメントを担う部署が設置されていない。 ・市史編さん事業で収集された資料の適切な管理および閲覧・活用を行うための体制を整備する必要がある。	文化財の保存・ 活用のための 組織強化
	【庁内】 ・文化財の効果的な保存と活用を担い、観光、産業、都市計画、市民協働など、多分野との連携と調整を行う組織や部署が設置されていない。	関係部署との 連携
	【市民団体】 ・文化財をまちづくりに活かしていくための、市民や民間団体との協働体制が整備されていない。	市民との協働

課題の性格	問題点	課題
F 文化財関連 施設の運営に 関わるもの	【第一資料館・第二資料館、田山花袋記念文学館等】 ・収蔵する文化財の増加により収蔵スペースが手狭となっており、一部文化財については適切な保存が困難になっている。 ・特に埋蔵文化財（出土遺物を含む）については、保存だけでなく保存に必要な作業（洗浄、整理など）を行う施設がなく、適切な管理が困難な状況にある。 ・いずれも開館から 30 年以上が経過して施設や設備が老朽化している。大規模改修や展示リニューアル、補修の実施、管理手法見直しの検討が必要である。 ・展示方法や施設設備について、多言語化やユニバーサルデザインなどに対応していない。	文化財保存 施設の充実
	【文化財施設の管理者等】 ・現在、市指定史跡「館林藩士住宅」（武鷹館）や市指定史跡「館林城跡」土橋門、関連施設として「田中正造記念館」などの管理運営を市民団体で行っているが、若い世代の構成員が少ない。	管理者への支援 強化の取り組み



写 5-1 市指定重文「旧館林藩士住宅」
移築復元の様子



写 5-2 館林市第一資料館



写 5-3 市史編さん事業（調査）



写 5-4 館林文化財ボランティア
（お月見会）

2 文化財の保存・活用の方針

(1) 目指すべき将来像

館林の歴史と文化とその魅力を、過去から受け継ぎ、
確かに守り、新たに見つけ、広く知らせ、未来へつなげる。

館林市には、歴史や風土に生まれ、市民の生活に根付いた豊富な文化財が存在する。これら現在まで受け継がれた文化財を確実に保護するとともに、それらが本来持っている魅力に改めて光を当て、学校教育や生涯学習、地域活性化、世代間・地域間の交流、そして未来の本市の文化を創造する素材として幅広く、積極的に活かしていくことを目指す。

(2) 文化財の保存・活用の基本方針

第4章¹で示した保存・活用のための課題を踏まえ、目指すべき将来像を実現するため、以下の取り組みを行う。

課題^Aに対する取り組み → ◆守り伝える（文化財の保護・管理）

課題^Bに関する取り組み → ◆保存し活かす（文化財の保存・整備）

課題^C・^Dに関する取り組み → ◆価値を発見し周知する

（調査・研究・普及・啓発）

課題^Eに関する取り組み → ◆守り活かす仕組みをつくる

（保存・活用を行うための組織・体制整備）

課題^Fに関する取り組み → ◆保存・活用のための施設や機会を充実させる

（文化財の公開と関連施設の整備）

① 守り伝える（文化財の保護・管理）

課 題	方 針
未指定（未登録）文化財の保護の強化	【新たな文化財の指定・登録の推進】 ・文化財のうち重要かつ要件が整っているものについて、指定または登録文化財化を進め、制度的な保護を推進する。
文化財所有者や関係団体への支援の充実	【現行の市指定文化財制度の見直し】 ・市文化財保護条例及び補助金交付要綱の改正や、市の指定文化財制度の見直しを行う。あわせて独自の新たな文化財保護制度の創設を検討する。 【無形民俗文化財継承団体への支援】 ・民俗芸能などの無形民俗文化財の技術継承を行うために、継承団体と定期的に協議する機会を設け、必要な支援についての把握を行う。
文化財の適正な管理	【文化財保存活用計画の策定】 ・既存の指定・登録文化財を適正に管理していくため、保存管理のガイドラインとなる保存活用計画の策定を進める。 【管理状況の把握・確認システムの整備】 ・個人や社寺所有など、調査や現状把握が十分でない文化財については、体系的な現況把握を推進し、状況を定期的に確認できるシステムを構築する。
文化財の防犯・防災対策	【防災・防犯体制の整備・強化】 ・個人または社寺所有の指定文化財の現状把握を目的とした調査を行い、防災・防犯体制の強化について所有者と協議を行う。 ・未指定文化財や地域の文化財（無住の社寺など）については、地元行政区などの協力のもと、文化財のパトロール制度を整備、強化する。

② 保存し活かす（文化財の保存整備）

課 題	方 針
まちづくり事業との連携	【文化財を活かしたまちづくりの推進】 - 文化財を単に歴史的に価値がある資産としてのみでなく、本市の知名度と魅力の向上や観光、地域振興など、幅広くまちづくりに活用することを目指す。 【多様な主体との連携強化】 - 歴史文化を活かしたまちづくりを推進できるよう、庁内の関係部署の連携や、市民や民間事業者などの多様な主体との連携強化を進める。
文化財建造物の補修・修理	【文化財建造物の保存整備事業の推進】 - 指定または登録の文化財建造物について、保存活用計画に基づき、補修や改修などの保存整備事業を進める。 - 未指定の文化財について、所有者と補修や修理について協議を行う。 - 建造物に関する保存整備事業が円滑に推進できるよう、事業手法や関連法令などに関する調査、検討を行い、必要となる環境の整備を行う。

③ 価値を発見し周知する（調査・研究・普及・啓発）

課 題	方 針
文化財に関する調査と状況把握	【既往調査の更新】 - 埋蔵文化財保護の基礎資料である遺跡台帳について改めて分布調査を実施し、台帳を更新するとともに、デジタル管理へ移行し、庁内の関連部署との連携を強化する。 【未調査分野に関する調査の推進】 - 市史編さん事業とあわせ、現在調査が十分に行われていない社寺やその所有する文化財に関する調査を進める。 【市民と協働する文化財調査の実施】 - 地域に眠る新たな文化財の掘り起こしや価値の見直しを目指し、市民参加で行うワークショップ型の文化財調査を推進していく。
文化財の価値や魅力に関する周知の強化	【情報発信機能の強化】 - ホームページやパンフレットなど、文化財に関する情報発信を行うメディアの充実や外国語解説の充実を図る。 【学校教育、生涯学習事業との連携強化】 - 市民に文化財の価値や魅力を周知する窓口となる学校教育や生涯学習事業との連携を強化していくため、学校や各種団体のニーズに対応した、教材などの開発や更新を行う。

④ 守り活かす仕組みをつくる（保存・活用を行うための組織・体制整備）

課 題	方 針
文化財の保存・活用のための組織強化	【文化財総合マネジメント体制の整備】 ・文化財の総合的なマネジメントが可能な専門職員の養成や専門部署の設置など、体制の整備を検討する。 ・市史編さん事業で得られた成果物の管理と活用、必要な追加調査の実施など、事業を継承するための体制を整備する。
関係部署および市民との協議	【文化財保存活用推進のための協議会等の設置】 ・文化財を活かしたまちづくりや地域振興を進めるため、関係部署や市民が参加して協議を行う環境を整備する。 ・文化財保存活用支援団体の指定など、文化財保護法改正（平成30年6月8日公布、平成31年4月1日施行）に基づく新たな施策の導入について研究し、関係部署や市民との新たな連携体制を検討する。

⑤ 保存・活用のための施設や機会を充実させる（文化財の公開と関連施設の整備）

課 題	方 針
文化財保存施設の充実	【保存・公開・活用のための施設の見直し】 ・既存の文化財保存・公開施設の見直しについて検討を進める。 ・現状の資料館の機能充実とともに、市役所市民ホールや公民館などの公共施設、その他の民間施設や店舗などの活用について検討、協議を行う。 ・既存社会資本の活用の可能性も含め、新たな文化財保存・公開施設の整備に関し、調査や検討を行う。
管理者への支援強化の取り組み	【文化施設の管理運営を行う団体の設立や助成】 ・既存の市民団体の体制強化を計るため、文化施設の管理運営を行う団体の設立や、既存市民団体の活動助成を検討する。

(3) 関連文化財群の保存・活用の方針

第4章で示した文化財群及び第5章¹で整理した問題点と課題を踏まえ、現在に活かしつつ次世代に伝えていくことを目標として、保存・活用の方針を設定する。

また、文化財が特に多く存在する旧城下町地域などについては、地域を限定した保存・活用の方策について検討を行う。

① 沼辺・河川の利用と暮らし

【方針】

市域に点在する沼は、人の活動が介在することで保たれてきた。「里山」と同種の、「^{きと}里沼」^{ぬま}とも呼ぶべきものである。いわゆる高度経済成長期前後の生活様式の変化により、それらと人との関わりは大きな変化を遂げ、その保全に危機が生じている。

ここでは「里沼の保全」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・人と自然との交流で形成・維持された「里沼」の環境サイクルに関する調査・研究や民俗文化財の記録保存
- ・「里沼」と水（沼）辺関連遺産について、情報発信と普及活動の推進（パンフレットやHPの制作、シンポジウムの開催など）
- ・「里沼」に関連する文化財について、さらなる調査、研究の実施
- ・「里沼」と水（沼）辺遺産保護のため、学校など教育機関や住民、関係機関と連携した環境教育、保全活動の推進
- ・関連機関や市民と協働する保全対策の策定
- ・関係団体と連携した、環境保護と文化財の保存・活用が融合した新たな保全策の実施

② 近世の生業から近代産業へ

【方針】

本関連文化財群の構成要素は日清製粉や正田醤油など、現在の本市の主要産業である食品産業と結びつくものである。うどんや麦落雁などは本市の名産品として、市の内外を問わず広くの人々に親しまれている。

こうした特性を踏まえ、これらの文化財が近世から近代の発展を経て、さらに現在まで続いて市民生活に密接に関わっていることを周知するとともに、新たな地域振興、活性化を含む「継続性を踏まえた新たな展開」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・麦産業に関連する文化財について、情報発信や普及活動の推進（パンフレットやHPの制作、シンポジウムやワークショップの開催など）

- ・産業遺産の保存・活用を検討するための、市民や企業との協力体制の構築
- ・特に重要と考えられる未指定文化財建造物について、指定または登録文化財化の推進
- ・身近な文化財を、広く・緩やかに保存していくための新たな制度の研究

③ モスリンと館林紬

【方針】

近代都市館林のにぎわいは、上毛モスリン株式会社の設立と織物市場（邑楽織物同業組合）の設置に大きく依拠した。日本の近代産業を牽引した織物業は本市経済も潤し、花街が形成される契機となった。名産品「館林紬」もこの流れの中で生まれたものである。

現在の「館林紬」は一部で生産されるのみだが、市内には旧上毛モスリン事務所をはじめ、往時の織物業の様子を今に伝える文化財が残されている。これら文化財群を活用し、「近代織物業と館林紬の歴史的価値の発信」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・近代館林の発展を支えた織物業関連文化財の情報発信・普及活動の推進（パンフレットやHPの制作、シンポジウムや体験講座の開催など）
- ・館林紬の歴史と魅力をアピールするイベントの開催
- ・伝統技術の映像による記録保存
- ・群馬県内および近隣地域の織物業と連携した共同イベントの開催

④ 「境目」地域の発展と人々の交流

【方針】

館林市は古来より、国（県）境地帯という「境目」の特性を活かして多くの地域と交流し、産業や文化を育んできた。また、市内では「沼辺」や、台地と低地の境である「台地縁辺部」などの地形的な「境目」に、その特性を巧みに利用して集落や城館が築かれ、生活が営まれた。

市内各地で行われる「ささら舞い」や大島町の「大島岡里神代神楽」、郷土料理「スミツカレ」といった民俗文化財も、「境目」から伝わり、今に残されたものである。

ここでは、本市が持つ「「境目」特性の周知と民俗芸能の保護・伝承」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・「境目」地域としての歴史や特性、由来する文化財に関する情報発信の強化
- ・「境目」を共有する隣接地域（自治体）との連携や交流の促進
- ・行政による保護を受けていない文化財（民俗芸能や習俗など）の、指定または登録文化財化の推進
- ・ささらなどの民俗芸能を保護・継続するため、行政や保存団体、学校、子ども会などと

連携した後継者育成の強化

- ・ 民俗芸能の指導者や技能継承者を顕彰・支援する、新たな制度の創設（市民無形遺産（仮称）、市伝統継承者（仮称）など）
- ・ 映像による民俗芸能・文化財の記録保存の推進
- ・ 民俗芸能をPRするイベントの開催
- ・ 街道や河岸、渡しなど、関連遺産の存在を顕在化するためのサイン設置やマップの作成

⑤ 歴代城主による統治と城下町の暮らし

【方針】

館林市中心市街地の基盤を形成した、近世館林城とその城下町に関連する文化財群である。構成する文化財は指定・未指定を問わず数多く残されているが、館林城は焼失して残る遺構はわずかであり、城下町は年月の経過とともに往時の雰囲気が希薄になりつつある。

ここでは、「館林城と城下町に関する周知と親しみの喚起」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・ 館林城（跡）および城下町に現存する遺構の存在や内容周知を目的とした説明板の設置
- ・ まち歩きに適した、古絵図と現在の地図とを重ねた、復元地図の作成と配布
- ・ 城と城下町を巡る見学コースの設定と整備、AR※の制作、案内ガイドの養成
- ・ 社寺および個人が所有する関連文化財の把握と保護状況の確認、情報発信
- ・ 郊外地域における、文化財の体系的な調査の実施と適切な価値付け

※AR：

Augmented Reality の略。拡張現実と訳される。現在の風景に往時の姿をCGなどの視覚情報で重ねて表示し、風景を仮想的に拡張することが代表的な活用事例。

⑥ 近郊都市文化の賑わい

【方針】

近代の市街地の娯楽や賑わい、本市発展の契機となった鉄道や産業に関連する文化財群である。館林の城下町は、製粉・織物業といった産業の発展や鉄道開通によって、近代都市の市街地へ変化した。また、鉄道で東京から気軽に旅行できる近郊都市となったことで、多くの行楽客が訪れるようになった。市街地にはこれらの都市生活者や行楽客を対象にした新たな産業や花街が現れ、賑わいと華やぎが生まれた。

ここでは、「近郊都市文化の保存・活用による賑わいの創出」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・ 歴史的価値を有する建造物の保存と、その活用に向けた所有者との協働を推進
- ・ 民間事業者による歴史的建造物のリノベーション活用に対する支援
- ・ 歴史的建造物を活用した各種イベントの開催推進

- ・産業関連文化財ツアーなど、民間事業者と協力した周知活動の推進
- ・花街の芸能（館林音頭、芸妓舞踊など）の記録保存と復活に関する検討の実施

⑦ 近現代の芸術と文化

【方針】

近世の終わりから近現代に活躍した、本市ゆかりの芸術家に関する文化財群である。

本市出身の小説家田山花袋は、明治・大正時代の館林の姿を自らの作品にしばしば登場させた。日本画の大家である小室翠雲や岸浪柳溪、俳人荒井閑窓など、館林出身の芸術家に関する文化財は市内に数多く残されている。また、市内に墓のある浮世絵師北尾重光の絵馬は本市及び近隣市町にも多く残され、両毛地域の交流を反映している。

ここでは、「本市ゆかりの芸術家に関連する文化財の保存と活用の推進」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・本市ゆかりの芸術家と、その作品を紹介するＨＰや冊子の発行による情報発信と周知活動の強化
- ・県立館林美術館や両毛地域の近隣市町と協力した、郷土ゆかりの芸術家に関する展示の開催
- ・本市ゆかりの芸術家やその作品を活用したイベント（アート展など）の開催
- ・私有芸術作品に関する価値・現状に関する調査方針の立案

⑧ 躑躅ヶ岡と館林の行楽文化

【方針】

本市最大の観光資源である「つつじが岡公園」（国指定名勝「躑躅ヶ岡（ツツジ）」を含む）に代表される、行楽文化に関連した文化財群である。

躑躅ヶ岡では、近世から身分に関わらず多くの人が花見を楽しみ、近代に鉄道が延伸されると遠方からも多くの行楽客が訪れるようになった。躑躅ヶ岡と「分（文）福茶釜」の茂林寺や「館林城築城伝説」の尾曳稲荷神社などの社寺を併せて巡る行楽コースは、本市の定番であった。行楽文化の発展は、産業の成長やそれに伴う花街の誕生、風景や行楽自体を題材とした芸術作品など、多くの恩恵を本市にもたらした。

ここでは「躑躅ヶ岡の保全と新たな行楽文化の創出」を目標とする。

【考えられる施策】

- ・国指定名勝「躑躅ヶ岡（ツツジ）」の保存活用計画の策定の推進
- ・つつじが岡公園周辺の景観保全に関する新たなルールや計画の策定
- ・行楽に関連する文化財の再評価とその利活用策の検討
- ・近代館林の行楽コースの復元に関する調査研究

3 歴史文化保存活用区域の設定と各区域の方針

(1) 歴史文化保存活用区域の設定

【歴史文化保存活用区域】

文化財や歴史文化、それらで構成される関連文化財群等が多く集積し、周辺環境を含め、本市の持つ歴史的・文化的な魅力や雰囲気を特に強く感じることできる区域を指す。何らかの規制を目的に設定されるものではなく、文化財や歴史文化を保存・活用する拠点区域として位置付けられるものである。

今後、まちづくりに関する事業の推進や関連計画の策定などを行う際に、本市の歴史文化の魅力を反映・活用するための基礎的な情報としての利用も想定される。

【区域の設定】

本市の歴史や文化を語るうえで欠かすことのできない文化財が多く所在し、周辺環境とも深い関連性を持って集積する次の2つの区域（4エリア）を、歴史文化保存活用区域として設定する。

A. 旧城下町と城沼周辺区域

B. 水辺・沼辺遺産区域

⇒①：茂林寺林寺沼周辺エリア、②：多々良沼周辺エリア、③：渡良瀬川流域エリア

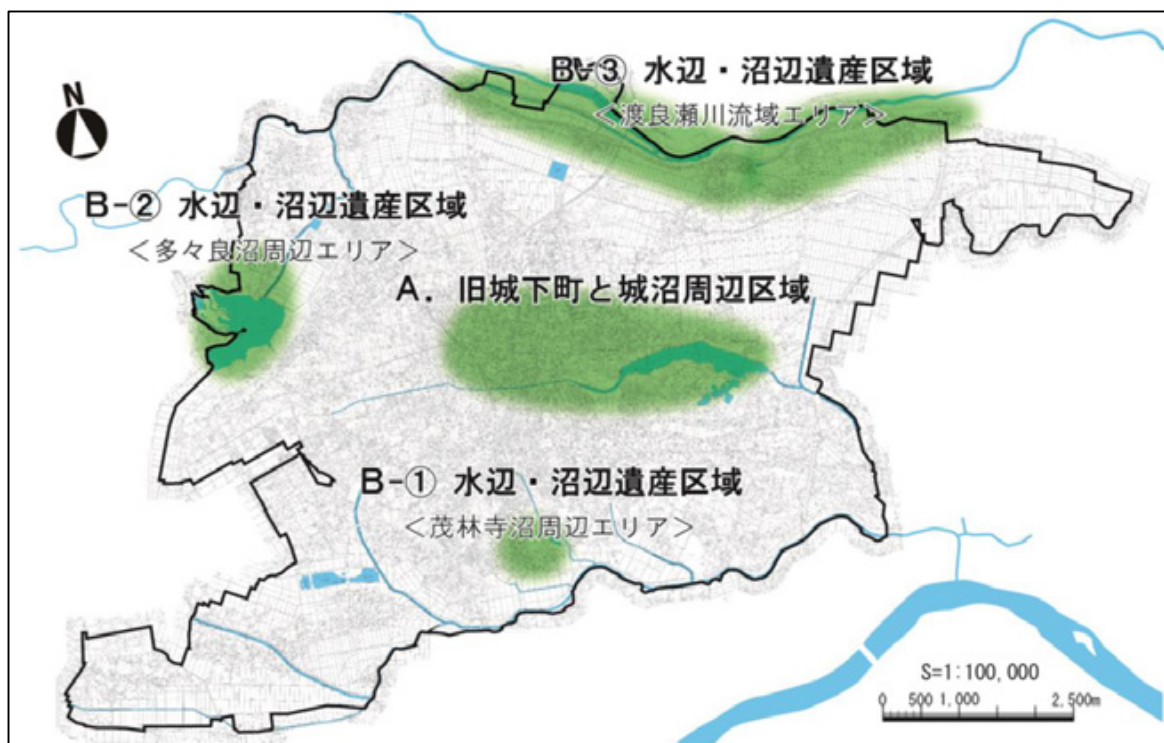


図 5-1 歴史文化保存活用区域の位置図

（２）各歴史文化保存活用区域の方針

A. 旧城下町・城沼周辺区域

館林城とその城下町、城沼、躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）など、本市の歴史文化を語る上で要となる文化財が特に集中する区域である。これらを有効に活用し、本市の魅力を内外に発信し、この区域を中心として市街地の活性化と観光客の増加を目指す。

同時に、集中する貴重な文化財や歴史文化を未来に伝えるために守る必要もあり、積極的な活用と的確な保護の両立が求められる区域である。

方針① 文化財保存・展示施設の設定・整備に向けた検討

第一資料館等の展示・収蔵スペースが限界を迎えつつあり、設備も老朽化している。既存の文化施設が多く立地し、歴史文化が特に集中する館林城跡とその城下町を含む当地区を候補として、新たに文化財の保存・展示が可能な施設を設定・整備する。

方針② 館林城と城下町に関する歴史文化の魅力向上

館林城と城下町に関する歴史文化の魅力向上、ひいては市全体の魅力向上を目指す。その方法として、見学コースの設定と整備、現存する城や城下町に関連する遺構に関する説明板設置などによるPR強化、往時の姿の復元CGを遺構とともに見学できるARの制作、案内ガイドの育成などを行う。

方針③ まちなかに存在する近代以降の歴史的建造物の保存・活用

歴史的価値を有する建造物を保存・活用するための、所有者との連携、民間事業者によるリノベーション活用の支援など、歴史的建造物を資源として積極的に活用していくための取り組みに関して調査研究を行う。

方針④ 躑躅ヶ岡と周辺の環境および景観の保全

国指定名勝「躑躅ヶ岡（ツツジ）」の保全を前提としつつ、魅力向上を図る計画を策定する。また、つつじが岡公園や城沼などの周辺一帯についても、環境や景観保全のための制度創設やルールづくりを検討する。



写 5-5 城沼の渡船（善長寺側）

方針⑤ 新たな周回型観光コースの設定

想定区域内に所在する文化財や歴史文化と、社寺やつつじが岡公園等の観光資源とを組み合わせた新たな観光コースについて、関係機関と連携して設定する。

現在も季節限定ながら運航されている尾曳稲荷神社とつつじが岡公園、あるいは善長寺を結ぶ渡船についても、さらなる活用が可能か調査を行う。



写 5-6 旧館林信用組合（現市民センター分室）
仲町・昭和9年（1934）建築



写 5-7 県指定重文「館林城鐘」
西本町・応声寺

B. 水辺・沼辺遺産区域

本市の自然と文化を特色づける、沼辺・河川を利用した暮らしに関連した歴史や文化が存在する地区をその範囲とする。以下の3エリアを設定する。

B-①：茂林寺沼周辺地エリア

市内の数ある池沼の中でも、その原型を特に良く残す「茂林寺沼及び低地湿原」が中心である。湿原内では現在も希少な動植物を多く見ることができ、館林の原風景的な自然に触れることができる。また、沼と湿原に隣接する茂林寺には著名な「分福茶釜」の伝説が伝わり、本市有数の観光拠点でもある。

人と沼辺の自然との多様な関わり方を提示し、新たな共生方法を実践する場としての利用が想定される。

方針① 茂林寺沼湿原の保全対策の推進

市民参加の保全活動を継続して推進していく。また、人が沼の自然に関わることにより保たれてきた「里沼」としての機能や環境サイクルについて関連する文化財を含めた調査・研究を進め、その成果を積極的に発信し、市民に体験の機会を提供する。

方針② 活用のための施設などの整備

本地区の自然と歴史文化について総合的なガイダンスや情報提供の手法を検討する。また、茂林寺沼と湿原の景観保全と良好な眺望を確保するための作業を行う。

方針③ 情報発信機能の強化

茂林寺沼の自然や周辺の歴史と伝説などの見どころについて、総合的な情報発信を行う HP の制作を行うことで情報発信機能の強化を図る。

方針④ 自然観察・歴史案内ガイドの育成

来訪者に本地区の自然や歴史、文化について案内するガイドを育成する。

方針⑤ 茂林寺周辺観光コースの設定

茂林寺沼と湿原、茂林寺、東武トレジャーガーデン（東武緑地株式会社）などの周辺の歴史や文化・観光施設を結ぶ観光コースについて、関係課・関係機関と連携して設定する。

観光地図の配布や HP での情報発信、案内サインの設置などによって誘客を図る。



写 5-8 ボランティアによる茂林寺沼湿原清掃活動



写 5-9 茂林寺沼湿原での自然学習会

B－②：多々良沼周辺エリア

自然と芸術に関連する文化財や歴史文化などが多く存在するエリアである。

多々良沼の近隣には、“自然と人間の関わり”をテーマにした群馬県立館林美術館がある。また、沼周辺は本市出身の彫刻家藤野天光など多くの彫刻家の作品が展示された「彫刻の小径」として整備され、多様な芸術作品に触れながら松林の中を散策することができる。

多々良沼は白鳥の飛来地としても知られ、冬季にはその姿を見るために多くの人が訪れる。年間を通じて釣り客も多く、漁協主催のまつりには多くの人が集まる。

水と緑、自然、芸術、食、産業など多様な魅力を融合させた活動や催し物を実施し、新たな魅力の創出を目指す。

方針① 新たなイベントの検討

群馬県立館林美術館や「彫刻の小径」など、芸術分野との深い関係を活かす。

芸術と自然（松林や沼、白鳥）、川魚や麦（食や産業）、芸術と歴史（埋蔵・民俗文化財）など、複数分野に関連させたイベントを創出し、誘客や地域住民の保存・活用に関する意欲向上に努める。

方針② 川魚に関連するイベントの検討

かつての漁法の実演や、川魚料理を紹介・提供するイベントによって、本市の水（沼）辺文化と、人との関わりを広く今に伝え、後世への伝承につなげる。



写 5-10 日向漁協まつり（多々良沼）

B－③：渡良瀬川流域エリア

渡瀬地区や大島地区を中心とした渡良瀬川流域エリアには、人々が水（川）と共存する中で生み出した多くの文化財や歴史文化が継承されている。

水塚や揚げ舟などは、人々が越水などの水（川）の脅威を乗り越えるために築いた知恵の成果である。また、明治期に渡良瀬川流域で大きな被害を出した足尾銅山鉱毒事件で活動した田中正造らの足跡もたどることができる。

さらに、エリア内の大島町の「大島岡里神代神楽」など、川の対岸（現栃木県佐野市）との交流で伝えられた文化財や歴史文化が数多く残されている。

人と川の共存、川を介した近隣地域との交流の記録を伝えることのできるエリアである。

方針① 水塚の保存

洪水に備えた避難場所として築かれた「水塚」は、水害の被害がほとんど無くなった現在では、老朽化して取り壊される事例が多い。先人の知恵、本市特有の歴史文化を後世に伝えるため、水塚の保存と活用方法について必要な取り組みを進める。



写 5-11 水塚の調査（大島地区）

第6章 今後の取り組み

1 歴史文化基本構想策定後の取り組み

館林市歴史文化基本構想は、館林市の文化財行政を所管する教育委員会文化振興課を中心として推進される。特に保存の根幹である文化財の防災・防犯に関する取り組みについては、所有者や地域と検討・連携のうえ、今後優先的に推進する。

なお、本構想を推進する上で庁内関係部署や関係機関、市民団体などとの連携を要する際は、必要に応じて協議を行う場を設定し、調整を行うものとする。

また、本構想の推進や関係する取り組みの状況については、必要に応じて館林市文化財審議委員会に報告し、意見を求める。

2 上位・関係行政計画との整合性

策定が予定されている「館林市第六次総合計画」などの上位・関係行政計画において、本構想を文化財保護のためのマスタープランとして位置付け、上位・関係行政計画の目的や方向性と本構想との整合性を確保できるよう、策定の際は関係部署と調整を行う。

<本構想における取り組みの仕分け>

文化財行政として進める取り組み	関係部署・関係団体との連携が必要な取り組み
◆守り伝える ・ 防災、防犯体制の整備と強化 ・ 文化財の指定、登録の推進 ・ 現行の市指定文化財制度の見直し ・ 文化財継承団体への支援強化 ・ 文化財保存活用計画の策定 ・ 文化財の現況を把握するシステムの整備 ◆保存し活かす ・ 個別の活用方針に適した整備手法の検討 ・ 必要とされる整備内容のリスト化を推進 ◆価値を発見し周知する ・ 既往調査情報の更新 ・ 未調査分野に関する調査の推進 ・ 市民と協働する文化財調査の実施 ・ 情報発信機能の強化 ・ 学校教育、生涯学習事業との連携強化 ◆守り活かす仕組みをつくる ・ 文化財の総合的なマネジメントが可能な体制の整備 ・ 保存活用の推進を目的とした組織の設置	◆保存し活かす ・ 文化財を活かし、まちづくり事業との連携 ・ 市民と協働した保存活用の実践 ◆保存・活用のための施設や機会を充実させる ・ 保存・公開・活用のための施設の見直し ・ 文化財や関連施設の管理運営を行う団体の設立や助成 ◆関連文化財群の保存活用 ・ 文化財を線として活用した、学習または観光コースの設定 ◆歴史文化保存活用区域の保存活用 ・ 各区域の特性を反映させた保存活用の手法に関する検討、実施

3 文化財保存活用地域計画の策定

本構想を基礎とし、文化財の保存活用に関する具体的なアクション・プランとして、文化財保護法に基づく『文化財保存活用地域計画』の策定を行う。

【文化財保存活用地域計画】

文化財保護法改正（平成 30 年 6 月 8 日公布、平成 31 年 4 月 1 日施行）により制度化された。既存の歴史文化基本構想をより具体的なアクション・プランとして発展、法定化したもので、一定の基準を満たしたものについて、文化庁長官に認定を申請することができる。

『歴史文化基本構想』の策定

【平成 30 年度策定】



『文化財保存活用地域計画』の策定

- ・文化財の保存活用に関する具体的なアクション・プランとして運用される。
- ・館林市が目指す目標や、中長期的に取り組む具体的な内容が記載される。
- ・歴史文化基本構想や、都道府県で策定が予定される文化財に関する大綱に基づくものとする。
- ・館林市全体の文化財の保存活用の方策について、実施すべき事業の内容やその期間、推進体制などを具体的に定める

【『歴史文化基本構想』から移行】



『文化財保存活用地域計画』記載事業の実施

【必要に応じて事業の評価・修正を行いながら実施】

巻 末 資 料

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| 1 | 館林市内文化財一覧 | P 102－ P 115 |
| 2 | アンケート調査結果の詳細 | P 116－ P 139 |

◆ 巻末資料

1 館林市内文化財一覧

- ・ 本リストは、平成30年（2018）12月時点のものである。
- ・ 今後の調査研究や関連事業の進捗により、随時更新することを予定する。

【指定文化財・登録文化財】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	国	名勝	躑躅ヶ岡(ツツジ)	近世	江戸	赤羽	群馬県	
1	県	重文 美術工芸	館林城鐘	近世	江戸	館林	応声寺	寛文13年(1673)鑄造
2	県	重文 美術工芸	不動まんだら板碑	中世	鎌倉	館林	五宝寺	永仁5年(1297)造立
3	県	重文 美術工芸	青石地藏板碑	中世	鎌倉	館林	愛宕神社	文永10年(1273)造立
4	県	重文 建造物	旧上毛モスリン事務所附棟札	近代	明治	館林	館林市	明治41年(1908)～ 同43年(1910)建築
5	県	重文 美術工芸	封内経界図誌	近世	江戸	館林	館林市	安政2年(1855)
6	県	史跡	大谷休泊の墓	中世	安土 桃山	多々良	大谷休泊 遺徳顕彰会	
7	県	史跡	榑原康政の墓附同画像	近世	江戸	赤羽	善導寺	
8	県	天然記念物	茂林寺沼及び低地湿原	－	－	六郷	館林市	
9	県	天然記念物	茂林寺のラカンマキ	－	－	六郷	茂林寺	応永33年(1426)に植樹(伝承)
1	市	重文 美術工芸	北条氏「虎印」制札	中世	安土 桃山	多々良	龍興寺	天正12年(1584)および天正13年(1585)
2	市	重文 美術工芸	生田萬の書跡	近世	江戸	館林	館林市	文政10年(1827)
3	市	重文 美術工芸	銅鐘	近世	江戸	赤羽	普済寺	慶安2年(1649)
4	市	重文 美術工芸	館林城下町絵図	近世	江戸	館林	個人	延宝2年(1674)
5	市	重文 美術工芸	松平武元書状(山椒)	近世	江戸	館林	館林市	元文4年(1739)～ 延享4年(1747)
6	市	重文 美術工芸	ジョン・ウィルヘルム・ウェイマン 著植物彩色図	近世	江戸	館林	館林市	1736年出版
7	市	重文 美術工芸	榑原康政禁制	中世	安土 桃山	多々良	龍興寺	
8	市	重文 美術工芸	館林城絵馬	近代	明治	館林	尾曳稻荷神社	明治6年(1873) 北尾重光筆
9	市	重文 美術工芸	明治戊辰戦争磐城進撃絵馬	近代	明治	館林	尾曳稻荷神社	明治2年(1869) 北尾重光筆
10	市	重文 美術工芸	千匹ムカデ絵馬	近世	江戸	渡瀬	赤城神社	筆者・制作年代不詳
11	市	重文 美術工芸	ムカデと梅樹絵馬	近世	江戸	渡瀬	赤城神社	天保11年(1840) 北尾重光筆
12	市	重文 美術工芸	松平武元書状(塩鮎)	近世	江戸	館林	館林市	元文4年(1739)～ 延享4年(1747)
13	市	重文 美術工芸	大成経(先代旧事本紀)	近世	江戸	館林	館林市	秋元家伝来
14	市	重文 美術工芸	明治戊辰戦争凱旋絵馬	近代	明治	館林	尾曳稻荷神社	明治2年(1869) 北尾重光筆
15	市	重文 美術工芸	常光寺の格天井絵画	近代	明治	館林	常光寺	明治33年(1900) 小室翠雲筆
16	市	重文 美術工芸	秋元泰朝所有具足 (卯花糸威金箔伊予札胴具足)	近世	江戸	館林	尾曳稻荷神社	秋元家2代泰朝が大坂夏の陣で着用
17	市	重文 美術工芸	不動明王図(教王院旧蔵)	中世	室町	館林	館林市	
18	市	重文 美術工芸	館林城跡出土墓石群	中世	中世	館林	館林市	室町期のものか
19	市	重文 建造物	旧館林藩士住宅	近世	江戸	館林	館林市	江戸後期
20	市	重文 美術工芸	上毛館林城沼所産水草図	近世	江戸	館林	館林市	弘化2年(1845)
21	市	重文 建造物	町検断の門	近世	江戸	館林	個人	
22	市	重要 無形民俗	大島岡里神代神楽(太々神楽)	近代	明治	大島	敬神講	江戸期は神主により奉納、明治期以降は里人が継承
23	市	重要 無形民俗	上三林のささら	近世	江戸	三野谷	上三林ささら 保存会	武州忍(埼玉県行田市)より伝来
24	市	史跡	田山花袋旧居及び旧居跡 附建屋売渡証一札	近代	明治	館林	館林市	売渡証は明治19年(1886)
25	市	史跡	生田萬父祖の墓	近世	江戸	館林	大道寺	
26	市	史跡	生祠秋元宮	近世	江戸	赤羽	永明寺	安政4年(1857)創建
27	市	史跡	館林城跡	近世	江戸	館林	館林市	館林城は明治7年(1875)焼失
28	市	史跡	田中正造の墓および救現堂	近代	大正	渡瀬	田中正造翁 奉賛会	【墓】昭和8年(1933)、【救現堂】大正8年(1919)移築
29	市	史跡	館林城主榑原忠次の母 祥室院殿の墓および石灯籠	近世	江戸	郷谷	善長寺	【墓】元和9年(1623) 【石燈籠】寛永10年(1633)
30	市	史跡	山王山古墳	先史	古墳	郷谷	善長寺	前方後円墳
31	市	史跡	館林城本丸土塁及び八幡宮	近世	江戸	館林	館林市	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
32	市	史跡	浮世絵師北尾重光の墓	近代	明治	館林	覚応寺	明治16年(1884)没
33	市	史跡	千塚の判官塚	近世	江戸	郷谷	千塚町	
34	市	史跡	日向義民地蔵	近世	江戸	多々良	日向義民地蔵奉賛会	元禄17年(1704)建立
35	市	天然記念物	タテバヤシザサ自生地	－	－	多々良	館林市	
1	登録	建造物	分福酒造店舗	近世	江戸	館林	分福酒造(株)	江戸時代末
2	登録	建造物	正田醤油正田記念館	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	嘉永6年(1853)
3	登録	建造物	正田醤油文庫蔵	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	江戸末期
4	登録	建造物	正田醤油六号蔵	近代	明治	館林	正田醤油(株)	明治41年(1908)
5	登録	建造物	正田醤油七号蔵	近代	明治	館林	正田醤油(株)	明治44年(1911)
6	登録	建造物	正田醤油八号蔵	近代	大正	館林	正田醤油(株)	大正末期
7	登録	建造物	正田醤油地内稲荷神社	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	江戸末期
8	登録	建造物	旧館林二業見番組合事務所	現代	昭和	館林	館林市	昭和13年(1938)

【社寺】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	社寺	天満宮(大街道一丁目)	－	－	館林	天満宮	
2	未指定	社寺	尾曳稲荷神社	中世	室町	館林	尾曳稲荷神社	天文元年(1532)創建
3	未指定	社寺	邑楽護国神社	近代	明治	館林	邑楽護国神社	明治2年(1869)創建
4	未指定	社寺	長良神社(代官町)	中世	室町	館林	長良神社	
5	未指定	社寺	熊野神社(台宿町)	－	－	館林	熊野神社	
6	未指定	社寺	五宝寺	中世	鎌倉	館林	五宝寺	永仁5年(1293)開基
7	未指定	社寺	長良神社(台宿町)	近世	江戸	館林	長良神社	元禄9年(1696)創建
8	未指定	社寺	愛宕神社	古代	奈良	館林	愛宕神社	文武4年(700)創建
9	未指定	社寺	応声寺	中世	鎌倉	館林	応声寺	徳治元年(1306)創建
10	未指定	社寺	法泉寺	中世	室町	館林	法泉寺	文明16年(1484)開基
11	未指定	社寺	琴平神社	－	－	館林	琴平神社	
12	未指定	社寺	稲荷神社(旧石町)	－	－	館林	稲荷神社	
13	未指定	社寺	金山神社	－	－	館林	金山神社	
14	未指定	社寺	清龍神社	近世	江戸	館林	清龍神社	
15	未指定	社寺	初引稲荷神社(宵稲荷神社)	中世	室町	館林	初引稲荷神社	天文元年(1532)ころ
16	未指定	社寺	大道寺	中世	－	館林	大道寺	
17	未指定	社寺	青梅神社(青梅天満宮)	平安	－	館林	青梅神社 (青梅天満宮)	
18	未指定	社寺	竹生島神社	－	－	館林	竹生島神社	
19	未指定	社寺	龍泉寺	－	－	館林	永明寺	近世(元禄年間)に再興
20	未指定	社寺	覚応寺	中世	－	館林	覚応寺	
21	未指定	社寺	白山神社(旧成島村)	－	－	館林	白山神社	
22	未指定	社寺	観性寺	中世	安土 桃山	館林	観性寺	天正4年(1576)開基
23	未指定	社寺	常光寺	中世	安土 桃山	館林	常光寺	天正5年(1577)開基
24	未指定	社寺	千眼寺	中世	鎌倉	館林	千眼寺	貞永元年(1232)創建
25	未指定	社寺	円教寺	中世	安土 桃山	館林	円教寺	天正4年(1576)開基
26	未指定	社寺	法高寺	中世	鎌倉	館林	法高寺	弘安4年(1281)開基
27	未指定	社寺	法輪寺	中世～ 近世	江戸	館林	法輪寺	
28	未指定	社寺	夜明稲荷神社	中世	室町	館林	夜明稲荷神社	天文元年(1532)創建
29	未指定	社寺	教王院	中世	室町	郷谷	教王院	永禄3年(1560)開基
30	未指定	社寺	大神宮(仲町、旧新紺屋町)	中世	安土 桃山	館林	新紺屋町	天正年間に創建か
31	未指定	社寺	野木神社(仲町、旧本紺屋町)	－	－	館林	野木神社	
32	未指定	社寺	熊野神社(千塚町)	－	－	郷谷	熊野神社	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
33	未指定	社寺	常栄寺	近世	江戸	郷谷	常栄寺	寛永10年(1632)開基
34	未指定	社寺	神明宮(千塚町、旧新当郷)	—	—	郷谷	神明宮	
35	未指定	社寺	浅間宮(細内町)	—	—	郷谷	個人	
36	未指定	社寺	観音堂(細内町)	—	—	郷谷	観音堂	
37	未指定	社寺	稲荷神社(田谷町)	—	—	郷谷	稲荷神社	
38	未指定	社寺	観音堂(田谷町)	—	—	郷谷	観音堂	
39	未指定	社寺	稲荷神社(四ツ谷町)	近世	江戸	郷谷	稲荷神社	延宝2年(1674)創建
40	未指定	社寺	宝寿院	—	—	郷谷	宝寿院	
41	未指定	社寺	松林寺	中世	安土 桃山	郷谷	松林寺	天正18年(1590)開基
42	未指定	社寺	神明宮(当郷町新田)	—	—	郷谷	神明宮	
43	未指定	社寺	善長寺	中世	室町	郷谷	善長寺	大永3年(1523)開基
44	未指定	社寺	当郷神社	古代	平安	郷谷	当郷神社	正暦3年(992年)創建
45	未指定	社寺	薬師堂(当郷町)	—	—	郷谷	薬師堂	
46	未指定	社寺	祖霊殿(善定院、廃寺)	—	—	大島	祖霊殿	
47	未指定	社寺	大島神社	—	—	大島	大島神社	
48	未指定	社寺	観音堂(大島町観音)	—	—	大島	観音堂	創建は近世か
49	未指定	社寺	吉祥寺	古代	平安	大島	吉祥寺	天慶2年(939)開基、 創建年代は伝承による
50	未指定	社寺	神明宮(大島町山王)	—	—	大島	神明宮	
51	未指定	社寺	山王地藏堂 (日限地藏)	—	—	大島	山王地藏堂	
52	未指定	社寺	大日稲神社	—	—	大島	大日稲神社	
53	未指定	社寺	春昌寺	中世	室町	大島	春昌寺	永禄6年(1563)開基
54	未指定	社寺	新田薬師堂(大島町正儀内)	—	—	大島	新田薬師堂	
55	未指定	社寺	菅原神社(天満宮)	—	—	大島	菅原神社	
56	未指定	社寺	十二社(権現)神社 (大島町寄居)	中世	—	大島	十二社 (権現)神社	
57	未指定	社寺	明善寺(大島町寄居)	—	—	大島	明善寺	境内に薬師堂あり
58	未指定	社寺	子ノ権現神社(子神社)	—	—	赤羽	子ノ権現神社	中世以前創建か
59	未指定	社寺	山神社(大山祇神社) (赤生田町山田)	—	—	赤羽	山神社	
60	未指定	社寺	白山神社 (赤生田本町下新田)	—	—	赤羽	白山神社	
61	未指定	社寺	大林稲荷神社	—	—	赤羽	大林稲荷神社	
62	未指定	社寺	長良神社 (赤生田本町中新田)	—	—	赤羽	長良神社	近世中期以前創建か
63	未指定	社寺	永明寺	古代	奈良	赤羽	永明寺	養老年中(717～724) 開基
64	未指定	社寺	駒方神社	—	—	赤羽	駒方神社	
65	未指定	社寺	阿弥陀堂(上赤生田町)	—	—	赤羽	阿弥陀堂	
66	未指定	社寺	永明寺 観音堂	—	—	赤羽	永明寺	
67	未指定	社寺	楠木神社	—	—	赤羽	楠木神社	中世創建か
68	未指定	社寺	富士嶽神社(花山町)	中世	室町	赤羽	富士嶽神社	永徳2年(1382)創建
69	未指定	社寺	稲荷神社(羽附旭町)	—	—	赤羽	稲荷神社	
70	未指定	社寺	瀬ノ上釈迦堂	—	—	赤羽	釈迦堂	
71	未指定	社寺	雷電神社(羽附旭町白旗)	—	—	赤羽	雷電神社	
72	未指定	社寺	皇大神宮(羽附旭町白旗)	—	—	赤羽	皇大神宮	
73	未指定	社寺	薬師堂(羽附旭町新興)	—	—	赤羽	個人	
74	未指定	社寺	八坂神社(羽附旭町長竹)	—	—	赤羽	八坂神社	
75	未指定	社寺	天満宮(羽附町下志柄)	—	—	赤羽	羽附町	
76	未指定	社寺	八坂神社(羽附町本宿)	—	—	赤羽	八坂神社	
77	未指定	社寺	普済寺	中世	室町	赤羽	普済寺	大永3年(1523)開基
78	未指定	社寺	宝秀寺	中世	室町	赤羽	宝秀寺	天正7年(1579)開基
79	未指定	社寺	長良神社(楠町下志柄)	—	—	赤羽	長良神社	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
80	未指定	社寺	他宗場の不動堂	—	—	赤羽	—	
81	未指定	社寺	善導寺	古代	奈良	赤羽	善導寺	和銅7年(708)開基
82	未指定	社寺	長良神社(青柳町)	中世	室町	六郷	長良神社	永正元年(1504)開基、貞享4年、現在地に移転
83	未指定	社寺	龍積寺	中世	室町	六郷	龍積寺	応永元年(1394)創建
84	未指定	社寺	密蔵寺	近世	江戸	六郷	密蔵寺	寛文元年(1661)創建
85	未指定	社寺	長良神社(新宿一丁目)	—	—	六郷	長良神社	
86	未指定	社寺	諏訪神社	—	—	六郷	諏訪神社	室町時代以降か
87	未指定	社寺	富士嶽神社(富士原町)	—	—	六郷	富士嶽神社	文禄元年、榊原康政により再建
88	未指定	社寺	熊野神社(堀工町)	中世～近世	—	六郷	熊野神社	慶長年間創建
89	未指定	社寺	茂林寺	中世	室町	六郷	茂林寺	応永33年(1426)創建
90	未指定	社寺	厳島神社	—	—	六郷	厳島神社	
91	未指定	社寺	遍照寺	中世	鎌倉	六郷	遍照寺	建久9年(1198)創建
92	未指定	社寺	菅原神社(天満宮)(入ヶ谷町)	—	—	三野谷	菅原神社	
93	未指定	社寺	八坂神社(上三林町)	—	—	三野谷	八坂神社	
94	未指定	社寺	雷電神社(上三林町)	—	—	三野谷	雷電神社	
95	未指定	社寺	十九夜堂(上三林町)	近世	江戸	三野谷	十九夜堂	宝暦3年(1753)創建
96	未指定	社寺	真観寺	—	—	三野谷	真観寺	鎌倉期、佐貫氏開基
97	未指定	社寺	雷光寺 松の木堂	—	—	三野谷	雷光寺	
98	未指定	社寺	雷光寺	中世	鎌倉	三野谷	雷光寺	正和元年(1312)創建
99	未指定	社寺	長良神社(下三林町)	—	—	三野谷	長良神社	
100	未指定	社寺	長良神社(野辺町)	近世	江戸	三野谷	長良神社	寛永11年(1634)創建
101	未指定	社寺	松林堂	—	—	三野谷	個人	
102	未指定	社寺	龍福密寺	近世	江戸	三野谷	龍福密寺	寛永14年(1637)開基
103	未指定	社寺	大了庵	—	—	多々良	大了庵	龍興寺(高根町)付属の僧坊
104	未指定	社寺	赤城神社(木戸町)	—	—	多々良	赤城神社	
105	未指定	社寺	神明宮(大神宮)(木戸町)	—	—	多々良	神明宮	
106	未指定	社寺	常楽寺	中世	鎌倉	多々良	常楽寺	弘安3年(1280)開基
107	未指定	社寺	深諦寺	中世	室町	多々良	応声寺	応永2年(1395)開基
108	未指定	社寺	愛宕神社(高根町)	—	—	多々良	—	
109	未指定	社寺	稲荷神社(高根町)	—	—	多々良	稲荷神社	
110	未指定	社寺	大山祇神社(高根町)	—	—	多々良	大山祇神社	
111	未指定	社寺	源清寺	—	—	多々良	源清寺	龍興寺(高根町)の役寺
112	未指定	社寺	長良神社(高根町台)	—	—	多々良	長良神社	
113	未指定	社寺	龍興寺	中世	鎌倉	多々良	龍興寺	文永4年(1274)開基
114	未指定	社寺	大谷神社	中世	室町	多々良	大谷神社	永禄元年(1558)またはその前年に創建
115	未指定	社寺	正林寺	—	—	多々良	正林寺	
116	未指定	社寺	稲荷神社(日向町)	—	—	多々良	稲荷神社	
117	未指定	社寺	長良神社(日向町下)	—	—	多々良	日向町	
118	未指定	社寺	古峯神社	—	—	多々良	古峯神社	
119	未指定	社寺	宝性寺	—	—	多々良	宝性寺	天保14年(1843)焼失、昭和42年(1967)再建
120	未指定	社寺	赤城神社(足次町)	中世	鎌倉	渡瀬	赤城神社	建仁2年(1202)創建、伝承
121	未指定	社寺	観音寺	中世	室町	渡瀬	観音寺	天文元年(1532)開基
122	未指定	社寺	稲荷神社(大新田町)	—	—	渡瀬	稲荷神社	
123	未指定	社寺	長良神社(岡野町)	中世	安土桃山	渡瀬	長良神社	天正元年(1573)創建
124	未指定	社寺	雷電神社(上早川田町)	—	—	渡瀬	雷電神社	
125	未指定	社寺	蓮葉院	中世	安土桃山	渡瀬	蓮葉院	天正2年(1574)開基
126	未指定	社寺	雲龍寺	中世	室町	渡瀬	雲龍寺	天文22年(1554)開基

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
127	未指定	社寺	神明宮(下早川田町道西)	—	—	渡瀬	神明宮	
128	未指定	社寺	赤城神社(傍示塚町西小宮)	—	—	渡瀬	赤城神社	
129	未指定	社寺	赤城神社(傍示塚町宮前)	—	—	渡瀬	赤城神社	

【建造物】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	建造物	㈱小室商店(店舗と事務所) (砂糖蔵・御茶蔵・珈琲蔵)	近代	昭和	館林	個人	店舗は昭和15年(1940)建築
2	未指定	建造物	㈱小室商店の風呂棟(レンガ造)	近代	—	館林	個人	
3	未指定	建造物	旧館林信用組合(現在の館林市市民センター分室)	近代	昭和	館林	館林市	昭和9年(1934)建築
4	未指定	建造物	旧蓼沼洋品店	近代	明治	館林	個人	明治33年(1900)建築
5	未指定	建造物	旧永壽堂医院	近代	大正	館林	個人	大正13年(1924)建築
6	未指定	建造物	旧秋元別邸	近代	明治	館林	館林市	明治34年(1901)建築か
7	未指定	建造物	福志満旅館 (料理屋・割烹旅館)	近代	昭和	館林	個人	昭和7年(1932)建築
8	未指定	建造物	龍神酒造㈱ 旧店舗	近代	明治	館林	龍神酒造㈱	明治40年(1907)建築
9	未指定	建造物	龍神酒造㈱ 主屋	近代	大正～昭和	館林	龍神酒造㈱	大正12年(1923)–昭和4年(1929)建築
10	未指定	建造物	梅の湯(銭湯)	近代	昭和	館林	個人	昭和初期建築
11	未指定	建造物	館林カトリック教会	現代	昭和	館林	館林カトリック教会	昭和32年(1957)建築
12	未指定	建造物	松澤家 母屋	近代	大正	三野谷	個人	大正2年(1913)建築
13	未指定	建造物	鷹匠町長屋門 (旧松澤家長屋門)	近代	—	館林	館林市	平成21年(2009)移築・整備
14	未指定	建造物	館林邑楽武道館 (旧館林尋常小学校講堂)	近代	明治	館林	NPO法人北小學舎	明治44年(1911)建築
15	未指定	建造物	群馬県立館林高等学校 旧銃器庫	近代	大正	館林	館林高校	大正13年(1924)建築
16	未指定	建造物	群馬県立館林女子高等学校 同窓会館	近代	昭和	館林	館林女子高校	昭和12年(1937)建築
17	未指定	建造物	旧郷谷村役場(館林地区高等 職業訓練校)	近代	大正	郷谷	館林市	大正15年(1937)建築
18	未指定	建造物	旧郷谷村役場の石蔵	近代	大正	郷谷	館林市	大正15年(1937)建築
19	未指定	建造物	旧大島村役場の石蔵	近代	—	大島	個人	昭和29年(1949)建築
20	未指定	建造物	旧渡瀬村役場の石蔵	現代	昭和	渡瀬	館林市	昭和9年(1934)建築
21	未指定	建造物	旧館林市庁舎 (館林市市民センター)	現代	昭和	館林	館林市	昭和38年(1963)建築
22	未指定	建造物	日清製粉の工場建築群 鉄工場	近代	明治	館林	㈱日清製粉 グループ本社	明治40年(1907)建築
23	未指定	建造物	日清製粉の工場建築群 研修室(旧工務室)	近代	明治	館林	㈱日清製粉 グループ本社	明治40～43年(1907～1910) 建築
24	未指定	建造物	日清製粉ミュージアム旧本館	近代	明治	館林	㈱日清製粉 グループ本社	明治43年(1910)建築
25	未指定	建造物	旧宮田毛織事務所(兼住宅)	近代	大正	館林	個人	大正8年(1930)建築
26	未指定	建造物	鋸屋根の工場	近代	昭和	館林	個人	昭和初期建築
27	未指定	建造物	谷田川家の大谷石倉庫	近代	昭和	館林	個人	昭和24年(1949)建築
28	未指定	建造物	牧野鍛冶店	近代	明治	館林	個人	明治33年(1900)建築
29	未指定	建造物	館林駅舎	近代	昭和	館林	東武鉄道㈱	昭和12年(1937)建築
30	未指定	建造物	館林駅 変電所・給水棟・ 転轍器・引き込み線	近代	昭和	館林	東武鉄道㈱	昭和2年(1927)建築
31	未指定	建造物	館林駅 給水棟・転轍器・ 引き込み線	近代	昭和	館林	東武鉄道㈱	
32	未指定	建造物	館林駅南高架下レンガ壁	近代	明治	館林	東武鉄道㈱	明治40年(1907)建築
33	未指定	建造物	茂林寺前駅	近代	昭和	六郷	東武鉄道㈱	昭和2年(1927)建築
34	未指定	建造物	多々良駅	近代	明治	多々良	東武鉄道㈱	明治40年(1907)建築
35	未指定	建造物	成島駅	近代	昭和	多々良	東武鉄道㈱	昭和19年(1944)建築
36	未指定	建造物	渡瀬駅	近代	昭和	渡瀬	東武鉄道㈱	昭和2年(1927)建築
37	未指定	建造物	武鷹館の長屋門・附属住宅	近代	—	館林	館林市	長屋門:建築年代不明 附属住宅:昭和29年(1954)
38	未指定	建造物	松の湯(銭湯)	近代	明治	館林	個人	明治36年(1904)建築
39	未指定	建造物	魚惣本店(料理屋・割烹旅館)	近代	明治	館林	個人	
40	未指定	建造物	旧清和園	近代	昭和	館林	個人	昭和11年(1936)建築
41	未指定	建造物	外池商店(屋号:和泉屋)	近代	昭和	館林	個人	昭和5年(1930)建築

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
42	未指定	建造物	魚恵寿司本店	近代		館林	個人	
43	未指定	建造物	清水屋酒造	近代		館林	個人	
44	未指定	建造物	旧対松亭 (俳人・荒井閑窓の別荘)	近代		館林	個人	
45	未指定	建造物	渡良瀬川鉄橋	近代		渡瀬	東武鉄道㈱	
46	未指定	建造物	駅周辺の倉庫群	近代	－	六郷	東武鉄道㈱など	
47	未指定	建造物	養蚕農家	近代	－	大島	個人	
48	未指定	建造物	養蚕農家	近代	－	渡瀬	個人	
49	未指定	建造物	屋敷林のある農家	近代	－	多々良	個人	
50	未指定	建造物	茅葺屋根の農家	近代	－	多々良	個人	
51	未指定	建造物	長屋門のある農家	近代	－	三野谷	個人	
52	未指定	建造物	大島1号水塚 正儀内	近代	大正	大島	個人	大正初期か
53	未指定	建造物	大島2号水塚 正儀内	近代	昭和	大島	個人	
54	未指定	建造物	大島3号水塚 寄居	近代	－	大島	個人	
55	未指定	建造物	大島4号水塚 寄居	近代	明治	大島	個人	
56	未指定	建造物	大島5号水塚(揚げ舟) 山王	近世	江戸	大島	個人	江戸後期か
57	未指定	建造物	大島6号水塚(揚げ舟) 山王	近代	大正	大島	個人	
58	未指定	建造物	大島7号水塚 上新田	近代	大正	大島	個人	
59	未指定	建造物	大島8号水塚 上新田	近代	明治	大島	個人	
60	未指定	建造物	大島9号水塚 上新田	近代	－	大島	個人	
61	未指定	建造物	大島10号水塚(揚げ舟) 上新田	現代	昭和	大島	個人	昭和3年(1928)建築
62	未指定	建造物	大島11号水塚 岡里	近代	大正	大島	個人	
63	未指定	建造物	大島12号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	－	大島	個人	
64	未指定	建造物	大島13号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	－	大島	個人	
65	未指定	建造物	大島14号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	－	大島	個人	
66	未指定	建造物	大島15号水塚(揚げ舟) 岡里	近代	明治	大島	個人	
67	未指定	建造物	大島16号水塚(揚げ舟) 観音	近代	明治	大島	個人	明治33年(1900)建築
68	未指定	建造物	大島17号水塚(揚げ舟) 観音	近代	明治	大島	個人	明治34年(1901)建築
69	未指定	建造物	大島18号水塚 観音	近代	明治	大島	個人	
70	未指定	建造物	赤羽1号水塚	近代	明治	赤羽	個人	
71	未指定	建造物	六郷1号水塚	近代	－	六郷	個人	
72	未指定	建造物	三野谷1号水塚	近代	－	三野谷	個人	
73	未指定	建造物	三野谷2号水塚(揚げ舟)	近代	明治	三野谷	個人	明治14年(1881)建築

【道標・石碑】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	道標	道標「竹生島神社道」	近代	明治	館林	本町三丁目	明治12年(1879) 竹生島神社入口
2	未指定	道標	道標「尾曳神社道」	近代	明治	館林	尾曳稲荷神社	明治44年(1911) 尾曳稲荷神社入口
3	未指定	道標	道標「館林町道路元標」	近代	大正	館林	館林市	大正14年(1925) 本町二丁目大辻
4	未指定	道標	道標「馬頭観世音」 (右 さの とちき)	近世	江戸	郷谷	坂下町	天保4年(1833) 日光脇往還
5	未指定	道標	道標「上早川田らいでん道」	近世	江戸	郷谷	坂下町	天保6年(1835) 日光脇往還
6	未指定	道標	道標「湯殿山西国供養」 (北 さの いわふね)	近世	江戸	郷谷	四ツ谷町	文政12年(1829) 稲荷神社前
7	未指定	道標	道標「庚申 南たてはやし」	近世	江戸	大島	大島町 (山王)	寛政6年(1794) 日限地藏前
8	未指定	道標	道標「観音 浜野伊右ヱ門 館林 山口伊 右ヱ門 立」	近世	江戸	大島	大島町 (観音)	天保7年(1836) 観音堂境内
9	未指定	道標	道標「北大嶋村字正儀内願主志」	近世	江戸	大島	大島町 (正儀内)	嘉永7年(1854)
10	未指定	道標	道標「御成婚記念 大正十三年一月二十 六日 大島村軍人会」	近代	大正	大島	大島町 (正儀内)	大正13年(1924)
11	未指定	道標	道標「御成婚記念 大正十三年一月二十 六日 大島村軍人会」	近代	大正	大島	大島町 (岡里)	大正13年(1924)
12	未指定	道標	道標「西 たてばやし」	近世	江戸	大島	大島町 (岡里)	岡里区民会館前

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
13	未指定	道標	道標「西国坂東東秩父百番巡礼供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (下新田)	明和3年(1766)
14	未指定	道標	道標「庚申供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	明和5年(1768)
15	未指定	道標	道標「庚申 右せんすいへ廿三丁」	近世	江戸	赤羽	赤生田本町 (大林)	寛政12年(1800)
16	未指定	道標	道標「月山 湯殿山 羽黒山」	近世	江戸	赤羽	楠町他宗場 不動堂	文政6年(1823) 他宗場不動堂境内
17	未指定	道標	道標「湯殿山納経供養」	近世	江戸	赤羽	楠町他宗場 不動堂	文政12年(1829) 他宗場不動堂境内
18	未指定	道標	道標「十九夜供養塔」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	天保12年(1841) 羽附旭町長竹集会所前
19	未指定	道標	道標「山田幸八 人碑 七十一歳賀祝」	近世	江戸	赤羽	赤生田町 (山田)	嘉永5年(1852)
20	未指定	道標	道標「道祖神 右こか」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (淵ノ上)	安政6年(1859)
21	未指定	道標	道標「庚申塔 春二月吉之日 南いゝのーり」	近世	江戸	赤羽	羽附旭町 (長竹)	安政7年(1860)
22	未指定	道標	道標「庚申 霞翁」	近世	江戸	赤羽	永明寺	万延元年(1860) 永明寺観音堂境内
23	未指定	道標	道標「南千津井ヲ経テ加須ニ至ル」	近代	大正	赤羽	赤生田本町 (中新田)	大正14年(1925)
24	未指定	道標	道標「南千津井ヲ経テ加須」	近代	大正	赤羽	赤生田本町 (十二社)	大正14年(1925) 十二社集会所前
25	未指定	道標	道標「たてばや志ーり」	近世	江戸	赤羽	宝秀寺	宝秀寺境内
26	未指定	道標	道標「奉納御宝前」	近世	江戸	六郷	茂林寺	享保9年(1724) 茂林寺境内
27	未指定	道標	道標「奉建立地藏尊」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	享保20年(1735)
28	未指定	道標	道標「南無観世音菩薩」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	元文元年(1736)
29	未指定	道標	道標「庚申」	近世	江戸	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	寛政12年(1800) 富士原神社境内
30	未指定	道標	道標「四国六十四番 松林寺」	近世	江戸	六郷	松原二丁目	文政8年(1825) 松原会館
31	未指定	道標	道標「富士浅間入口道」	近世	江戸	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	天保7年(1836)
32	未指定	道標	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	六郷	堀工町 (中山東)	文久元年(1861)
33	未指定	道標	道標「道祖神 当所 五月 瀬山」	近世	江戸	六郷	松原一丁目	
34	未指定	道標	道標「右 ゑくろ せんつい 左 いたくら こ加 道」	近世	江戸	六郷	松原二丁目	
35	未指定	道標	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	三野谷	個人	天保11年(1840) 松林堂入口
36	未指定	道標	道標「馬頭観世音 上三林村」	近世	江戸	三野谷	上三林町	嘉永7年(1854) 十九夜堂前
37	未指定	道標	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	三野谷	上三林町	安政5年(1858) 雷光寺境内
38	未指定	道標	道標「雷電神社入口」	現代	昭和	三野谷	上三林町	昭和7年(1932) 雷電神社入口
39	未指定	道標	道標「右 こいつみ おしま 左 あかかいわふつと 道」	近世	江戸	多々良	館林市	寛延元年(1748) 旧大谷町三叉路
40	未指定	道標	道標「右 足利 左 太田小泉 道」	近世	江戸	多々良	日向町	安永6年(1777) 日向義民地藏前
41	未指定	道標	道標「奉読誦 念仏二億五百万遍」	近世	江戸	多々良	日向町	安永8年(1779) 大日尊集会所
42	未指定	道標	道標「馬頭観世音 右 足利 左 太田 道」	近世	江戸	多々良	日向町	天保6年(1835) 大日尊集会所
43	未指定	道標	道標「馬頭観世音」	近世	江戸	多々良	日向町	天保12年(1841) 大日尊集会所
44	未指定	道標	道標「供養 寛政三年亥九月吉祥日」	近世	江戸	多々良	木戸町	寛政3年(1791)
45	未指定	道標	道標「念仏供養 寛政十戊午九月吉日」	近世	江戸	多々良	木戸町	寛政10年(1798)
46	未指定	道標	道標「おおた こいづみ」	近世	江戸	多々良	木戸町	天保13年(1842)
47	未指定	道標	道標「多々良村道路元標」	近代	江戸	多々良	館林市	大正14年(1925) 第八小学校前
48	未指定	道標	道標「庚申」	近世	江戸	多々良	成島町	文化6年(1809)
49	未指定	道標	道標「従是富士浅口」	近世	江戸	多々良	赤土町	天保11年(1840) 赤土町会館
50	未指定	道標	道標「猿田彦尊 鈿女尊」	近世	江戸	渡瀬	岡野町	文化元年(1804)
51	未指定	道標	道標「らみでん宮入口道」	近世	江戸	渡瀬	下早川田町	天保7年(1836) 神明宮入口
52	未指定	道標	道標「馬頭観世音 妙口玄明謹書」	近世	江戸	渡瀬	大新田町	慶応2年(1866) 稻荷神社境内
53	未指定	記念碑	藤牧義夫版画碑	現代	昭和	館林	館林市	昭和53年(1978)
54	未指定	記念碑	山田烏兎二君碑	近代	明治	六郷	館林市	明治33年(1900)
55	未指定	記念碑	城沼墾田碑	近代	明治	館林	館林市	明治36年(1903)
56	未指定	記念碑	水害記念碑	近代	明治	渡瀬	館林土木事務所	明治44年(1911)
57	未指定	記念碑	修堤碑	近代	明治	渡瀬	-	明治44年(1911)
58	未指定	記念碑	干拓記念碑(多々良沼)	現代	昭和	多々良	-	昭和31年(1956)
59	未指定	記念碑	大谷休泊紀功之碑	近代	明治	赤羽	群馬県	明治17年(1884)

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
60	未指定	記念碑	大谷原開墾碑	近代	昭和	多々良	大谷休泊 遺徳顕彰会	昭和8年(1933)
61	未指定	記念碑	躑躅岡公園碑	近代	明治	赤羽	群馬県	
62	未指定	記念碑	織物組合記念碑・ 織姫神社石鳥居記念碑	近代	昭和5	館林	長良神社	昭和5年(1930)
63	未指定	記念碑	富貴座十五周年記念碑	近代	－	館林	館林市	
64	未指定	記念碑	柳溪画家寄附記念樹の碑 (岸浪柳溪)	近代	－	赤羽	群馬県	
65	未指定	供養塔	魚魂供養(供養祭、供養碑)	現代	昭和	郷谷	善長寺	
66	未指定	文学碑	坂本風流句碑	近代	明治	六郷	山神社 (近藤町)	明治19年(1886)
68	未指定	文学碑	閑窓句碑	近代	明治	館林	常光寺	明治19年(1886)
67	未指定	文学碑	花山句碑(荒井閑窓句碑)	近代	明治	赤羽	群馬県	明治45年(1912)
69	未指定	文学碑	芭蕉句碑 富士原町富士嶽神社内	近世	江戸	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	安政5年(1858)
70	未指定	文学碑	芭蕉句碑 つつじが岡公園内	近代	明治	赤羽	群馬県	明治38年(1905)
71	未指定	文学碑	芭蕉句碑 善長寺境内	近世	江戸	郷谷	善長寺	
72	未指定	文学碑	田山花袋歌碑 尾曳稲荷神社境内	現代	昭和	館林	尾曳稲荷神社	昭和22年(1947)

【歴史資料・芸術資料・美術工芸】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	芸術資料	田山花袋記念文学館所蔵 田山花袋関係資料	近現代	明治～ 平成	館林	館林市	
2	未指定	歴史資料	館林市中絵入案内双六	近代	明治	館林	館林市	
3	未指定	歴史資料	秋元家家臣分限帳 (中小姓以上各式帳他)	近世	江戸	館林	館林市	
4	未指定	歴史資料	第四十国立銀行資料	近代	明治	館林	館林市	
5	未指定	歴史資料	福田啓作日誌	近代	明治～ 昭和	館林	館林市	
6	未指定	芸術資料	岸波柳溪関係資料	近代	明治～ 昭和	館林	館林市	
7	未指定	芸術資料	岸浪百草居関係資料	近代	明治～ 昭和	館林	館林市	
8	未指定	芸術資料	句集「桃夭集」(藪鶯編)	近代	江戸～ 明治	館林	館林市	
9	未指定	芸術資料	「溪山幽邃図」ほか 小室翠雲資料	近代	明治	館林	館林市	
10	未指定	芸術資料	藤牧義夫資料	近代	昭和	館林	館林市	
11	未指定	芸術資料	荒井閑窓俳画作品	近代	明治	館林	館林市	
12	未指定	芸術資料	山田音羽子屏風	近世	江戸	館林	館林市	
13	未指定	芸術資料	藤野天光彫刻作品	近代	昭和	大島	館林市	
14	未指定	歴史資料	松平家家臣が尾曳稲荷神社に 奉納した水鉢	近世	江戸	館林	館林市	
15	未指定	歴史資料	館林城千貫橋の擬宝珠胴体	近世	江戸	館林	館林市	
16	未指定	歴史資料	旧館林藩士宅に伝来した 甲冑や武具類	近世	江戸	館林	館林市	
17	未指定	歴史資料	邑楽郡館林全図(長田家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
18	未指定	歴史資料	足尾鉋毒事件関係資料 (大塚家文書)	近代	明治	館林	大塚家	
19	未指定	歴史資料	北大島村水害絵図	近代	江戸	館林	館林市	
20	未指定	歴史資料	明治43年洪水絵はがき	近代	明治	館林	館林市	
21	未指定	歴史資料	大水につき御救御普請願書 (宝暦7年)	近世	江戸	館林	館林市	
22	未指定	歴史資料	多々良沼組合并村々絵図 (秋元家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
23	未指定	歴史資料	館林藩領内水路絵図 (秋元家旧蔵)	近世	江戸	館林	館林市	
24	未指定	歴史資料	五郡用水鑑	近世	江戸	館林	館林市	
25	未指定	歴史資料	館林領五郡農家水配鑑	近世	江戸	館林	館林市	
26	未指定	歴史資料	利根川加用水議定書	近世	江戸	館林	館林市	天保11年(1840)
27	未指定	歴史資料	野辺村野銭林開発願書	近世	江戸	館林	館林市	
28	未指定	歴史資料	「榑原康政書状」ほか榑原家 関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
29	未指定	歴史資料	松平乗寿奉書ほか大給松平家 関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
30	未指定	歴史資料	館林城絵図ほか館林城関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
31	未指定	歴史資料	「松平家備立図」ほか越智 松平家関係資料	近世	江戸	館林	館林市	

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
32	未指定	歴史資料	「諸心得留」ほか井上家関係資料	近世	江戸	館林	館林市	
33	未指定	歴史資料	無之字槍ほか秋元家コレクション資料	近世	江戸	館林	館林市	
34	未指定	歴史資料	「奏者番手控」ほか「秋元文庫」資料	近世～現代	江戸～昭和	館林	館林市	
35	未指定	歴史資料	館林藩史料	近世	江戸	館林	館林市	
36	未指定	歴史資料	寒香園文庫	近世～現代	江戸～昭和	館林	館林市	
37	未指定	芸術資料	田山花袋文庫	近代～現代	明治～平成	館林	館林市	
38	未指定	美術工芸	県立館林美術館所蔵小室翠雲関係資料	近代	－	多々良	県立館林美術館	
39	未指定	美術工芸	県立館林美術館所蔵藤牧義夫関係資料	近代	－	多々良	県立館林美術館	
40	未指定	美術工芸	県立館林美術館所蔵岸浪柳溪関係資料	近代	－	多々良	県立館林美術館	
41	未指定	美術工芸	県立館林美術館所蔵岸浪百草居関係資料	近代	－	多々良	県立館林美術館	
42	未指定	歴史資料	徳川綱吉筆「芦鷺之図」	近世	江戸	館林	愛宕神社 (長良神社)	
43	未指定	美術工芸	徳川綱吉時代城主時代の灯籠・水鉢(尾曳稲荷神社)	近世	江戸	館林	尾曳稲荷神社	
44	未指定	美術工芸	小室翠雲「孔雀図」ほか茂林寺所蔵美術資料	近代	江戸	六郷	茂林寺	
45	未指定	美術工芸	「榑原康政禁制」ほか茂林寺所蔵文書	中世～近世	－	六郷	茂林寺	
46	未指定	歴史資料	足尾鉋毒事件関係資料(雲龍寺資料)	近代	大正	渡瀬	雲龍寺	大正2年(1913)
47	未指定	美術工芸	「商人仲間所用留」ほか正田家記念館所蔵資料	近世～現代	江戸～昭和	館林	正田醤油(株)	

【有形民俗文化財】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	有形民俗	漁撈具(手網、ウケ、ゴキウケ、ハズアミ等)	近代～現代	－	多々良	館林市	
2	未指定	有形民俗	揚げ舟	近代～現代	－	多々良	館林市	
3	未指定	有形民俗	稲作農具(田舟、ヒキドイ等)	近代～現代	－	多々良	館林市	
4	未指定	有形民俗	麦作農具(フリボウ、麦踏ローラー等)	近代～現代	－	多々良	館林市	
5	未指定	有形民俗	製粉道具	近代～現代	－	館林	㈱日清製粉グループ本社	
6	未指定	有形民俗	機織り具	近代～現代	－	館林	館林市	
7	未指定	有形民俗	養蚕用具	近代～現代	－	多々良	館林市	
8	未指定	有形民俗	鷹番札	近世	江戸	館林	館林市	
9	未指定	有形民俗	醤油造りの道具	近世	江戸	館林	外池商店	
10	未指定	有形民俗	醤油造りの道具	近世	江戸	館林	正田醤油(株)	

【無形民俗文化財】

No.	指定者	区分	名称	実施日	地区	継承者	備考
1	未指定	民俗芸能	木戸のささら	7月第四日曜日	多々良	木戸町獅子舞保存会	
2	未指定	民俗芸能	羽附ささら	旧暦3月3日・6月15日に近い日曜日	赤羽	羽附ささら保存会	
3	未指定	民俗芸能	八木節	各地区の祭りなど	－	館林市八木節連合会など	
4	未指定	民俗芸能	足次太々神楽	－	渡瀬	足次神楽保存会	現在休止中
5	未指定	芸能	館林音頭	－	－	－	
6	未指定	芸能	つつじ音頭	－	館林	－	消失
7	未指定	芸能	館林小唄	－	館林	－	消失
8	未指定	芸能	芸妓舞踊(分福茶釜)	－	館林	－	消失
9	未指定	郷土料理	川魚料理(鯉のあらい、鯉こく、なまず天ぷら、ザコの甘露煮など)	－	－	川魚料理店	
10	未指定	郷土料理	麦食文化(うどん、冷麦、冷や汁、饅頭、麦落雁など)	－	－	－	
11	未指定	郷土料理	スミツカリ(スミツカレ)	2月初午	－	－	
12	未指定	習俗・祭礼	初市	1月18日	館林	市商業観光課	近世以前に由来か、六斎市が起源
13	未指定	習俗・祭礼	たてばやし七夕まつり	8月7日	館林	市商業観光課	田山花袋の作品に記述あり
14	未指定	習俗・祭礼	館林まつり	7月第三日曜日とその前日	館林	市商業観光課	昭和47年(1972)、当初は秋祭り
15	未指定	習俗・祭礼	獅子の土用干し	8月1日に近い日曜日	渡瀬	赤城神社(足次町)	

No.	指定者	区分	名称	実施日	地区	継承者	備考
16	未指定	習俗・祭礼	駒方神社の弓取式	1月25日(例大祭)	赤羽	駒方神社	
17	未指定	習俗・祭礼	子ノ権現神社の大祭	3月15日(大祭)	赤羽	子ノ権現神社	子ノ権現神社は中世以前創建か
18	未指定	習俗・祭礼	雷電神社の雷・嵐除け	5月1日(例大祭)	赤羽	羽附旭町(白旗)	
19	未指定	習俗・祭礼	富士嶽神社(富士原町)の初山大祭	6月1日(例大祭) 5月31日(宵宮)	六郷	富士嶽神社(富士原町)	富士嶽神社(富士原町)は近世以前に創建
20	未指定	習俗・祭礼	富士嶽神社(花山町)の初山大祭	5月1日(例大祭) 4月30日(宵宮)	赤羽	富士嶽神社(花山町)	富士嶽神社(花山町)は永徳2年(1382)創建
21	未指定	習俗・祭礼	八坂祭・天王祭	7月第四日曜日など	—	市内各地区	
22	未指定	習俗・祭礼	大島神社の夏越祭り	7月	—	大島神社	
23	未指定	習俗・祭礼	長良神社(赤生田本町)の夏越祭り	7月	赤羽	長良神社(赤生田本町)	長良神社(赤生田本町)は近世中期以前創建か
24	未指定	習俗・祭礼	長良神社(代官町)の節分祭	2月3日	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
25	未指定	習俗・祭礼	長良神社(代官町)の恵比寿講	旧暦10月19・20日	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
26	未指定	習俗・祭礼	長良神社(代官町)の銀杏祈願祭	12月下旬	館林	長良神社(代官町)	長良神社(代官町)は室町期に創建
27	未指定	習俗・祭礼	常楽寺の六算除け	1月4日	多々良	常楽寺	常楽寺は鎌倉期に開基
28	未指定	習俗・祭礼	深諦寺の日限地藏の供養祭	1・8月の16日	多々良	応声寺	深諦寺は室町期に開基
29	未指定	習俗・祭礼	善長寺の子育十一面観音の縁日	正月17日	郷谷	善長寺	善長寺は大永3年(1523)開基
30	未指定	習俗・祭礼	茂林寺の守鶴尊大祭(分福茶釜)	春と秋	六郷	茂林寺	昭和17年(1942)まで実施
31	未指定	習俗・祭礼	大般若経	5月1日(羽附旭町)など	—	市内各地区	
32	未指定	習俗・祭礼	法高寺の御命講	旧暦10月13日	館林	法高寺	法高寺は弘安4年(1281)開基
33	未指定	習俗・祭礼	法高寺の焙烙灸の呪い	7月の土用の丑の日	館林	法高寺	法高寺は弘安4年(1281)開基
34	未指定	習俗・祭礼	水神信仰	—	—	—	
35	未指定	習俗・祭礼	トオカンヤ	旧暦10月10日	—	—	
36	未指定	習俗・祭礼	麦打唄	—	—	—	
37	未指定	習俗・祭礼	麦念仏	—	—	—	
38	未指定	習俗・祭礼	庚申講	旧暦10月14日～冬至までの都合の良い日(大島町)など	—	—	
39	未指定	習俗・祭礼	十九夜講	旧暦19日の夜	—	—	
40	未指定	習俗・祭礼	念仏講	月に1回など	—	—	
41	未指定	習俗・祭礼	大山阿夫利神社の石尊様	7月から8月の間	—	—	
42	未指定	習俗・祭礼	御嶽講	2月13日(日向旧正月の日待)など	—	—	
43	未指定	習俗・祭礼	伊勢講		—	—	
44	未指定	習俗・祭礼	富士講	毎月	—	—	
45	未指定	習俗・祭礼	三峰講	三峰神社大祭(4月19日)のあと	—	—	
46	未指定	習俗・祭礼	古峰ヶ原講	4月下旬の代参後	—	—	
47	未指定	習俗・祭礼	雷電講	1月4日(郷谷地区)など	—	—	
48	未指定	習俗・祭礼	どんど焼き	1月15日に近い日曜日(堀工町)など	—	市内各地区	
49	未指定	習俗・祭礼	初午	2月最初の午の日	—	—	
50	未指定	習俗・祭礼	十五夜・十三夜	旧暦8月15日・ 旧暦9月13日	—	—	
51	未指定	習俗・祭礼	地藏盆	8月23日(上赤生田町・四ツ谷町)など	—	—	
52	未指定	伝説	日向のドンダラサマ	—	多々良	—	
53	未指定	伝説	たたら伝説(宝日向)	—	多々良	—	
54	未指定	伝説	竜神伝説	—	館林	—	
55	未指定	伝説	築城伝説	—	館林	—	
56	未指定	伝説	つつじが岡の伝説	—	館林	—	
57	未指定	伝説	分(文)福茶釜伝説	—	六郷	茂林寺	

【史跡（埋蔵文化財）】

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
1	未指定	史跡	六月免遺跡	古墳・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
2	未指定	史跡	下遺跡	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
3	未指定	史跡	日向古墳群	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
4	未指定	史跡	木戸城跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
5	未指定	史跡	日向新田遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
6	未指定	史跡	多々良沼遺跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
7	未指定	史跡	小蓋林遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
8	未指定	史跡	山神脇遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
9	未指定	史跡	梅木山遺跡	縄文・古墳・近世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
10	未指定	史跡	高根古墳群	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
11	未指定	史跡	高根・外和田遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
12	未指定	史跡	高根城跡	中世	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
13	未指定	史跡	大道北遺跡	古墳・奈良・平安・ 中世・近世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
14	未指定	史跡	新倉前遺跡	古墳・奈良・平安	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
15	未指定	史跡	高根稻荷大明神古墳	古墳	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
16	未指定	史跡	岡野・屋敷前・岡遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
17	未指定	史跡	蛇屋敷跡	中世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
18	未指定	史跡	磯ヶ原城跡	中世	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
19	未指定	史跡	北大島館跡	中世	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
20	未指定	史跡	八方遺跡	縄文・古墳・奈良・ 平安・中世・近世	渡瀬	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
21	未指定	史跡	大島下悪途1遺跡	古墳・奈良・平安	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
22	未指定	史跡	大島下悪途2遺跡	古墳・奈良・平安	大島	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
23	未指定	史跡	上絹屋遺跡	縄文	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
24	未指定	史跡	牛島遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
25	未指定	史跡	諏訪北遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
26	未指定	史跡	妙円寺1遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
27	未指定	史跡	妙円寺2遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
28	未指定	史跡	二ッ塚遺跡	平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
29	未指定	史跡	天神遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
30	未指定	史跡	栄町遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
31	未指定	史跡	大街道遺跡	縄文・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
32	未指定	史跡	愛宕神社古墳	古墳	館林	愛宕神社	埋蔵文化財包蔵地
33	未指定	史跡	館林城跡・城下町	縄文・古墳・中世・近世	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
34	未指定	史跡	朝日町遺跡	縄文	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
35	未指定	史跡	広内町1遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
36	未指定	史跡	広内町2遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
37	未指定	史跡	若宮遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
38	未指定	史跡	城町遺跡	奈良・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
39	未指定	史跡	加法師遺跡	縄文・古墳・奈良・ 平安・中世・近世	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
40	未指定	史跡	尾曳町1遺跡	古墳・平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
41	未指定	史跡	善長寺付近遺跡 (山王山古墳)	古墳	郷谷	善長寺	埋蔵文化財包蔵地
42	未指定	史跡	当郷本郷遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
43	未指定	史跡	当郷新田古墳	古墳	郷谷	個人	埋蔵文化財包蔵地
44	未指定	史跡	当郷新田遺跡	平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
45	未指定	史跡	道祖神遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
46	未指定	史跡	四ッ谷袖屋遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
47	未指定	史跡	村前遺跡	古墳・平安	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
48	未指定	史跡	水溜第一地点遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
49	未指定	史跡	水溜第二地点遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
50	未指定	史跡	二本松遺跡	縄文・古墳・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
51	未指定	史跡	近藤障子遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
52	未指定	史跡	伝右エ門遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
53	未指定	史跡	北近藤第一地点遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
54	未指定	史跡	北小袋遺跡	旧石器・縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
55	未指定	史跡	小袋遺跡	縄文・古墳・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
56	未指定	史跡	中島遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
57	未指定	史跡	大塚遺跡	平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
58	未指定	史跡	清水橋遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
59	未指定	史跡	富士嶽神社古墳	古墳	六郷	富士嶽神社 (富士原町)	埋蔵文化財包蔵地
60	未指定	史跡	富士見町遺跡	平安	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
61	未指定	史跡	新宿二丁目遺跡	－	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
62	未指定	史跡	尾曳町2遺跡	古墳	館林	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
63	未指定	史跡	屋敷添遺跡	縄文・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
64	未指定	史跡	三軒屋遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
65	未指定	史跡	大袋Ⅱ遺跡	旧石器・縄文	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
66	未指定	史跡	大袋Ⅰ遺跡	旧石器・縄文・弥生・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
67	未指定	史跡	花山東遺跡	縄文・古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
68	未指定	史跡	大袋5遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
69	未指定	史跡	大袋城跡(大袋城遺跡)	古墳・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
70	未指定	史跡	青山屋敷跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
71	未指定	史跡	大袋3遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
72	未指定	史跡	富士山古墳	古墳	赤羽	富士嶽神社 (花山町)	埋蔵文化財包蔵地
73	未指定	史跡	大袋4遺跡	縄文・古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
74	未指定	史跡	下志柄遺跡	縄文	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
75	未指定	史跡	下志柄古墳	古墳	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地
76	未指定	史跡	町谷1号墳	古墳	赤羽	館林市	埋蔵文化財包蔵地
77	未指定	史跡	町谷1遺跡	縄文・古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
78	未指定	史跡	町谷2遺跡	古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
79	未指定	史跡	町谷2号墳	古墳	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地
80	未指定	史跡	町谷3遺跡	平安	赤羽	個人	埋蔵文化財包蔵地
81	未指定	史跡	白旗城跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
82	未指定	史跡	長竹遺跡	－	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
83	未指定	史跡	当郷遺跡	古墳・奈良・平安・中世・近世	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
84	未指定	史跡	陣谷遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
85	未指定	史跡	羽附陣屋跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
86	未指定	史跡	小林遺跡	弥生・古墳・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
87	未指定	史跡	新田西遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
88	未指定	史跡	新田北遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
89	未指定	史跡	台遺跡	古墳・平安・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
90	未指定	史跡	上三林古墳	古墳	三野谷	個人	埋蔵文化財包蔵地
91	未指定	史跡	南近藤遺跡	古墳・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
92	未指定	史跡	北近藤第二地点遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
93	未指定	史跡	稻荷前遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
94	未指定	史跡	苗木西遺跡	奈良・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
95	未指定	史跡	苗木遺跡	古墳・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
96	未指定	史跡	青柳中島遺跡	奈良・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
97	未指定	史跡	近藤陣屋跡	中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
98	未指定	史跡	萩原遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
99	未指定	史跡	青柳城跡	中世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
100	未指定	史跡	中堤遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
101	未指定	史跡	笹原遺跡	旧石器・縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
102	未指定	史跡	法正谷遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
103	未指定	史跡	中山東遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
104	未指定	史跡	前通遺跡	平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
105	未指定	史跡	下堀工道満遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
106	未指定	史跡	美園町遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
107	未指定	史跡	腰巻遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
108	未指定	史跡	咄戸遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
109	未指定	史跡	咄戸沼遺跡	縄文・古墳・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
110	未指定	史跡	大原道東遺跡	縄文・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
111	未指定	史跡	南美園町遺跡	縄文・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
112	未指定	史跡	神明前遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
113	未指定	史跡	宮内遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
114	未指定	史跡	上ノ前遺跡	縄文	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
115	未指定	史跡	谷向遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
116	未指定	史跡	間堀1遺跡	縄文・古墳	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
117	未指定	史跡	間堀2遺跡	縄文・平安・中世・近世	六郷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
118	未指定	史跡	山東遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
119	未指定	史跡	大林遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
120	未指定	史跡	林遺跡	古墳以降	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
121	未指定	史跡	侍辺城跡	中世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
122	未指定	史跡	南古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
123	未指定	史跡	南遺跡	縄文・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
124	未指定	史跡	子ノ神1遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
125	未指定	史跡	子ノ神古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
126	未指定	史跡	子ノ神2遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
127	未指定	史跡	志柄1遺跡	縄文・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
128	未指定	史跡	赤生田中島遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
129	未指定	史跡	志柄2遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
130	未指定	史跡	道満遺跡	縄文・弥生・古墳・平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
131	未指定	史跡	町谷4遺跡	縄文・古墳以降	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
132	未指定	史跡	淵ノ上1遺跡	縄文・平安・中世・近世	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
133	未指定	史跡	淵ノ上古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
134	未指定	史跡	下新田遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
135	未指定	史跡	淵ノ上2遺跡	－	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
136	未指定	史跡	中新田古墳	古墳	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
137	未指定	史跡	赤生田町谷遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
138	未指定	史跡	中新田遺跡	平安	赤羽	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
139	未指定	史跡	東山遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
140	未指定	史跡	小曽根遺跡	平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
141	未指定	史跡	三林城跡	中世	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
142	未指定	史跡	菅原神社古墳	古墳	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
143	未指定	史跡	申子遺跡	弥生・平安	三野谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

No.	指定者	区分	名称	時代	地区	所有者	備考
144	未指定	史跡	外加法師遺跡	縄文	郷谷	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
145	未指定	史跡	松沼町遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
146	未指定	史跡	山神裏遺跡	縄文	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地
147	未指定	史跡	三本松遺跡	旧石器	多々良	個人ほか	埋蔵文化財包蔵地

【史跡】

No.	指定者	区分	名称	時代		地区	所有者	備考
1	未指定	史跡	館林城ゆめひろば (二の丸跡、南郭跡)	近世	江戸	館林	館林市	近世館林城
2	未指定	史跡	稲荷郭	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城
3	未指定	史跡	大手門跡	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城
4	未指定	史跡	加法師土塁	近世	江戸	郷谷	個人ほか	近世館林城
5	未指定	史跡	城町土塁	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城
6	未指定	史跡	朝日町土塁	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城
7	未指定	史跡	総郭の土塁	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城
8	未指定	史跡	江戸口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城城下町
9	未指定	史跡	太田口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城城下町
10	未指定	史跡	小泉口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城城下町
11	未指定	史跡	佐野口門跡	近世	江戸	館林	個人ほか	近世館林城城下町
12	未指定	史跡	加法師口門跡	近世	江戸	郷谷	個人ほか	近世館林城城下町
13	未指定	史跡	青龍の井戸	近世	江戸	館林	個人	近世館林城城下町
14	未指定	史跡	竜の井	近世	江戸	館林	館林市	近世館林城城下町
15	未指定	史跡	松平乗寿の墓	近世	江戸	赤羽	善導寺	大給松平家2代、館林城主
16	未指定	史跡	伝お辻・松女の墓	近世	江戸	郷谷	善長寺	近世館林城
17	未指定	史跡	田山花袋の姉の墓	近代	明治	館林	常光寺	
18	未指定	史跡	小池藤左衛門の墓	近世	江戸	郷谷	観音堂	
19	未指定	史跡	日光脇往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
20	未指定	史跡	太田往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
21	未指定	史跡	小泉道	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
22	未指定	史跡	古河往還	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
23	未指定	史跡	藤岡道	近世	江戸	各地区	個人ほか	近世館林城城下町
24	未指定	史跡	田山花袋生誕の地	近代	明治	館林	個人	

【天然記念物・文化的景観】

No.	指定者	区分	名称	地区	所在地	備考
1	未指定	天然記念物	沼辺 (城沼、多々良沼、近藤沼、蛇沼)	－	(城町ほか、日向町ほか、近藤町ほか、堀工町ほか)	
2	未指定	天然記念物	河川(渡良瀬川、谷田川、矢場川、多々良川、鶴生田川)	－		
3	未指定	天然記念物	内陸古砂丘	多々良		
4	未指定	天然記念物	渡良瀬川旧河道	－		
5	未指定	天然記念物	川魚	－		
6	未指定	天然記念物	マコ、葦、荻、ヒシ、蓮根、水辺の植物	－		
7	未指定	天然記念物	水鳥(カイツブリ、カモ等)	－		
8	未指定	文化的景観	承水溝	－		
9	未指定	文化的景観	休泊堀			中世期に掘削
10	未指定	文化的景観	四ヶ村用水、十九ヶ村用水、伊谷田用水、利根加用水等	－		
11	未指定	文化的景観	堰番	多々良	木戸町	
12	未指定	文化的景観	陸田	－		

(1) アンケートの概要

「日本遺産」認定・「歴史文化基本構想」策定のためのアンケートについて（お願い）

【1 あなたについて】

設問1-1 性別を教えてください。

☐ 男 ☐ 女

設問1-2 年齢を教えてください。

☐ 10歳代 ☐ 20歳代 ☐ 30歳代 ☐ 40歳代 ☐ 50歳代 ☐ 60歳代以上

設問1-3 お住まいを教えてください。

☐ 館林市内 ☐ 邑楽郡内 ☐ 群馬県内（館林市・邑楽郡以外） ☐ 埼玉県内 ☐ 栃木県内
☐ 茨城県内 ☐ その他〔 〕

設問1-4 本市に限らず、日本の歴史区分の中で特に興味を引かれる時代を教えてください。【1つだけ回答】

☐ 先史時代（旧石器・縄文・弥生） ☐ 古墳時代 ☐ 奈良・平安時代 ☐ 鎌倉時代
☐ 室町時代（南北朝時代を含む） ☐ 安土桃山時代（戦国時代を含む） ☐ 江戸時代
☐ 近現代（明治・大正・昭和以降） ☐ 特になし

設問1-5 歴史や文化財について、興味・関心はありますか。もっとも近い項目を教えてください。

☐ とてもある ☐ ややある ☐ どちらともいえない ☐ あまりない ☐ まったくない

設問1-6 以下の文化財に関連する催しに、参加したことはありますか？【該当する項目全てを回答】

☐ 市立資料館及び田山花袋記念文学館の展示見学 ☐ 市立資料館及び田山花袋記念文学館の展示解説会（毎月開催）
☐ 館林市歴史講演会（毎年1、2月頃開催） ☐ 茂林寺沼や周辺の湿原における清掃活動や学習会
☐ つつじが岡公園の管理活動（ボランティア清掃・子房摘みなど）

【2 館林市の歴史・文化について】

設問2-1 館林市の歴史や文化財の中で、特に大切・誇れる・特徴的・将来まで残したい・友人知人にも紹介やおススメしたい、と思うものを教えてください。【2つまで回答】

☐ 躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）のつつじ ☐ 館林城（跡）と城下町
☐ 「榊原康政の墓」など館林城主に関する史跡や遺物 ☐ 田山花袋とその作品
☐ 茂林寺・尾曳神社などの寺社仏閣 ☐ 八木節・ささらなどの伝統芸能
☐ 旧上毛モスリン事務所や日清製粉など、近代産業に関わる文化財 ☐ 館林紬などの織物（産業）
☐ 利根川や渡良瀬川、城沼・多々良沼・茂林寺沼などの水辺景観と文化 ☐ うどんや川魚料理などの食文化
☐ 古墳や集落などの遺跡 ☐ 特になし ☐ その他（ ）

設問2-2 市内には資料館など、本市の文化や文化財に関連する施設が多数あり、以下はその一部です。

過去2年間で、訪れたことがある施設を教えてください。【該当する項目全てを回答】

☐ 館林市第一資料館 ☐ 田山花袋記念文学館
☐ 館林市第二資料館（旧上毛モスリン事務所・田山花袋旧居） ☐ 館林藩士住宅「武鷹館」
☐ つつじが岡公園（映像学習館・ふれあいセンター含む） ☐ 旧秋元別邸
☐ 正田記念館 ☐ 分福酒造店舗 ☐ 茂林寺沼湿原
☐ 日清製粉ミュージアム ☐ 群馬県立館林美術館 ☐ 向井千秋記念子ども科学館
☐ 田中正造記念館 ☐ その他（ ）

設問2-3 以下は、館林の歴史に縁の深い・大きな影響を与えた人物の一部です。ご存知の人物を教えてください。【該当する項目全てを回答】

☐ 赤井照光 ☐ 赤井文六・文三 ☐ 長尾景長 ☐ 大谷休泊 ☐ 榊原康政 ☐ 松平乗寿
☐ 徳川綱吉 ☐ 柳沢吉保 ☐ 太田資晴 ☐ 松平清武 ☐ 井上正春 ☐ 秋元志朝
☐ 生田万 ☐ 北尾重光 ☐ 長沢理玄 ☐ 正田貞一郎 ☐ 南條新六郎 ☐ 田中正造
☐ 小室翠雲 ☐ 田山花袋 ☐ 藤野天光 ☐ 藤牧義夫 ☐ 向井千秋

設問 2-4 以下は現在も市内で行われている伝統的なまつりや行事、民俗芸能の一部です。実際に見た、または参加したことがあるものを教えてください。(複数の地域で行われているものもございます。見た・参加した地域は問いません)【該当する項目全てを回答】

- 【まつり】 ☐七夕まつり ☐館林まつり ☐だるま市・初市
☐子(子の神)神社の大祭 ☐富士嶽神社(花山町・富士原町)の初山参り
- 【伝統行事・習俗】 ☐ドンド焼き ☐盆棚 ☐カツモウマ(作り)
☐茂林寺の茶筌供養 ☐駒方神社の弓取式 ☐長良神社の恵比寿講
- 【民俗芸能】 ☐大島岡里神代神楽 ☐ささら舞・獅子舞 ☐八木節
☐その他〔 〕

設問 2-5 以下は、市内及び近隣地域の伝統的な食文化の一部です。実際に食べたことのあるものを教えてください。【該当する項目全てを回答】

- ☐鯉のあらい ☐鯉こく ☐ナマズのスッポ煮 ☐ナマズの天ぷら・タタキアゲ ☐鮎のあらい
☐鮎の雀焼き ☐スミツカレ ☐イナゴの佃煮 ☐カルメ焼き ☐ヒヤシルうどん
☐麦ようかん ☐麦落雁 ☐その他〔 〕

【3 「日本遺産」について】

設問 3-1 「日本遺産」という制度を知っていますか？

- ☐知っている(制度の内容まで) ☐聞いたことはある(制度名だけ) ☐知らない

設問 3-2 「日本遺産」を有する自治体を知っていますか(どこか1か所で可)。

- ☐知っている ☐知らない

設問 3-3 前問 3-1 で「☐知っている」と答えたかたに質問です。「日本遺産」の認定地について、「日本遺産」の構成資産(文化財)を見ることを目的にして、実際に訪問したことはありますか。

- ☐はい ☐いいえ ⇒ 「はい」の場合、その地名または名称〔 〕

設問 3-4 本市が「日本遺産」認定を目指す場合、本市の文化財にはどんな“ストーリー”(特徴・セールスポイント)※があると考えますか？【該当する項目を2つまで回答】

- ☐沼辺の自然景観やつつじが岡公園 ☐歴代藩主と城下町の歴史 ☐江戸時代の街道や近代交通
☐製粉や織物など近現代の産業 ☐寺社や祭りや村々の伝統芸能 ☐うどんや川魚(ナマズ)などの食文化
☐その他〔 〕

【4 文化財の保存と活用について】

設問 4-1 文化財の保護と活用のバランスについて、今後どのようにすべきと考えますか。もっとも当てはまる項目を教えてください。

- ☐保護に専念する(活用は必要最小限)。 ☐保護を優先とするが、一定の範囲で活用も行う(従来どおり)。
☐積極的な活用(まちづくりや地域活動、観光振興等)を優先し、一定の保護も行う。
☐活用に専念する(保護は必要最小限)。 ☐その他〔 〕

設問 4-2 人口の減少やそれに伴う地域コミュニティの活動衰退は、文化財の保護や活用に必要な人的・金銭的な負担を増加させる恐れがあります。文化財の「指定」・「登録」を今後どのようにすべきと考えますか。もっとも当てはまる項目を教えてください。

- ☐現状の指定文化財の維持に努めるべきである。(現状維持)
☐未把握の文化財をさらに掘り起こし、指定文化財を積極的に増やしていくべきである。
☐所有者が主体となって保護・活用も行う、独自の「市登録」文化財制度を新設し、1つでも多くの地域の財産を守るべきである。
☐その他〔 〕

設問 4-3 市内の文化財や遺跡、歴史的建造物の保護・活用事業、関連施設の運営事業の必要性について、どのようにお考えですか。もっとも近い項目を教えてください。

- ☐とても重要だと思う ☐やや重要だと思う ☐どちらともいえない
☐あまり重要とは思わない ☐まったく重要とは思わない

設問 4-4 本市の文化財や歴史遺産の活用方法について、アイデア・ご意見などがございましたら、ご記入ください。【自由記述】

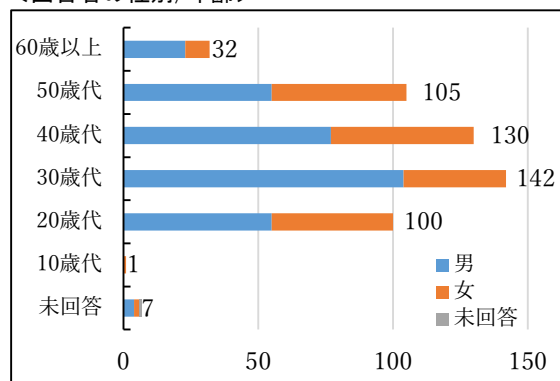
〔 〕

(2) 集計結果

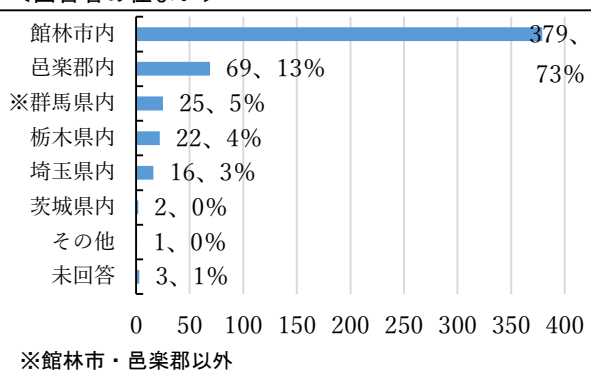
設問 1-1、2、3 性別、年齢、住まい

20～50 歳代を中心に、合計 517 人から回答が得られた。男女比は男性の方が多いが、6：4 程度の割合で回答が得られた。年齢別の傾向は、回答者が多い 20～50 歳代を中心に見ることにした。また、回答者の住まいは館林市内が約 73%を占め、邑楽郡内、他群馬県内も合わせると、県内に住む人は 9 割を超える。県外に住む回答者数が少ないため、住まい別の傾向は参考程度に見ることにした。

<回答者の性別/年齢>



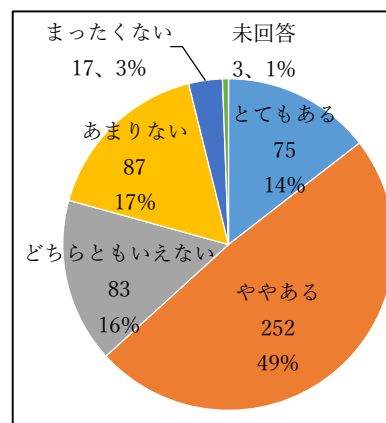
<回答者の住まい>



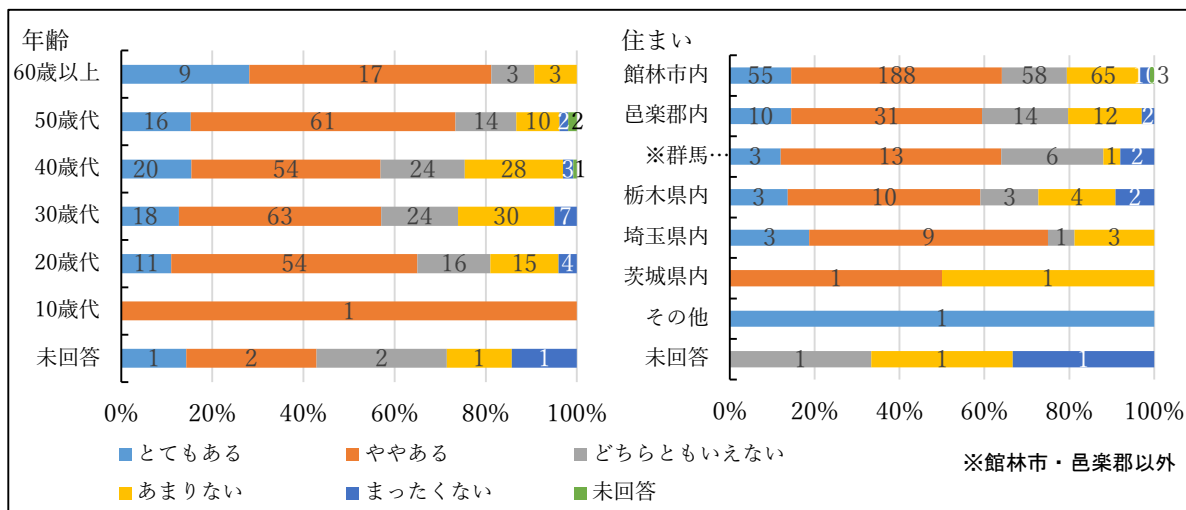
設問 1-5 歴史や文化財への興味・関心

歴史や文化財への興味・関心は、「とてもある・ややある」人が全体の約 63%を占め、「まったくない・あまりない」人は約 20%、「どちらともいえない」人は約 16%だった。

年齢別の傾向を見ると、50・60 歳以上で「とてもある・ややある」人の割合が特に多く、次いで 20 歳代も多かった。30・40 歳代は興味・関心が低めで、30・40 歳代の約 25%が「あまりない・まったくない」と回答した。住まい別の傾向では、大きな差が見られなかった。



<属性別の傾向/歴史や文化財への興味・関心>



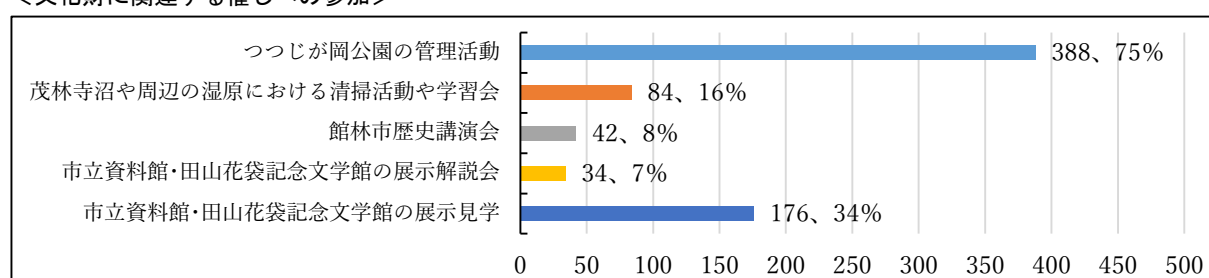
設問 1-6 文化財に関連する催しへの参加【該当する項目全て】

文化財に関連する催しは、「つつじが岡公園の管理活動」へ参加した経験のある人が圧倒的に多く、全体の約 75%が参加していた。「館林市歴史講演会」は少なく、市立資料館・田山花袋記念文学館も、「展示見学」をしたことがある人は多かったが、「展示解説会」への参加率は低かった。

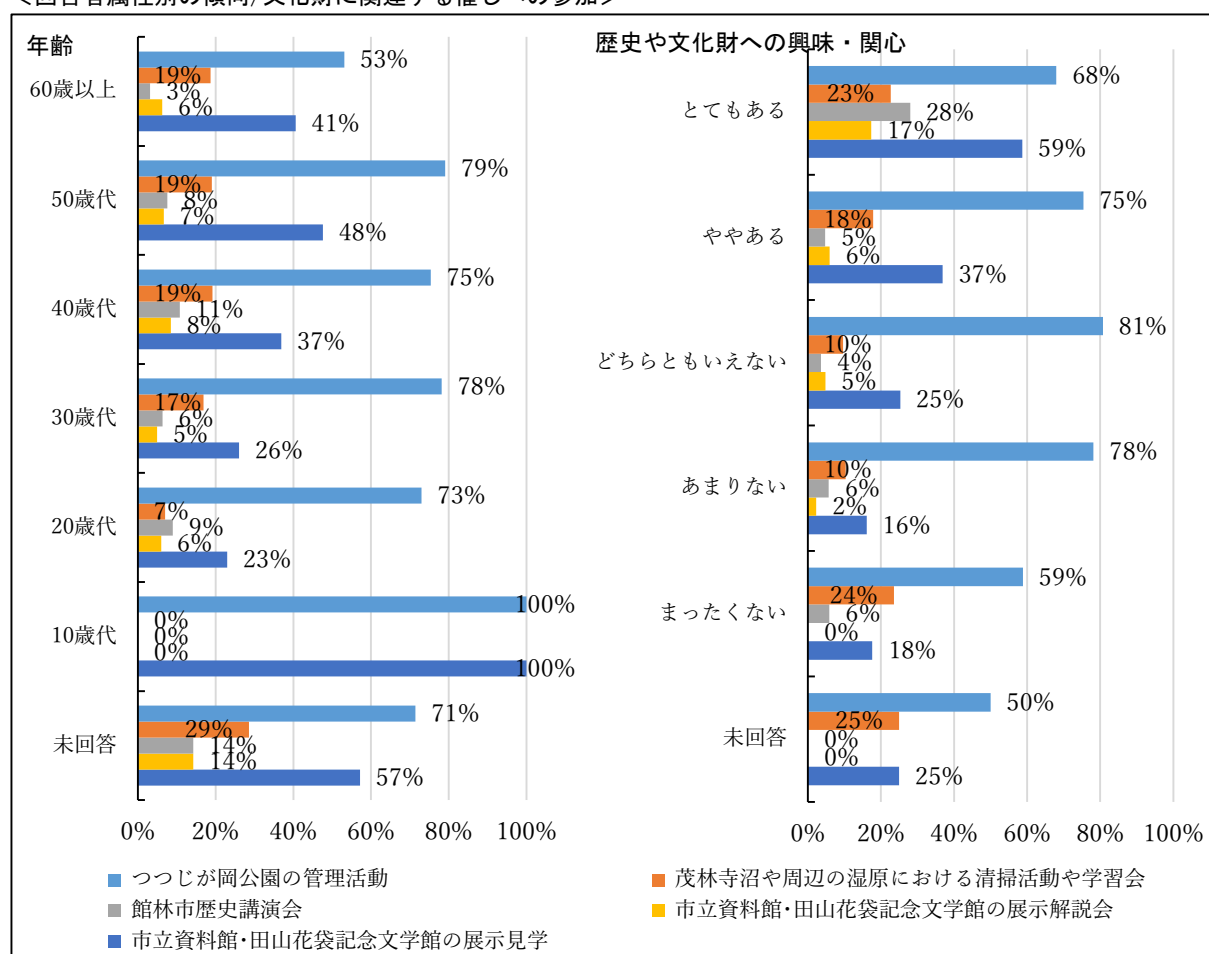
年齢別の傾向を見ると、30～50 歳代の人には各種催しへの参加経験の割合が高かった。市立資料館・田山花袋記念文学館の「展示見学」への参加は、年齢層が高いほど概ね高いが、他の催しでは大きな差は見られなかった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向を見ると、興味・関心が高い人ほど、多様な催しへの参加経験の割合が高いが、興味・関心が「あまりない・まったくない」人も「つつじが岡公園の管理活動」や「茂林寺沼や周辺の湿原における清掃活動や学習会」への参加率は高かった。

<文化財に関連する催しへの参加>



<回答者属性別の傾向/文化財に関連する催しへの参加>



設問 2-1 館林市の歴史や文化財の中で特に大切と思うもの【該当する項目 2 つ】

市の歴史や文化財の中で最も大切と思うものに「躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）のつつじ」を選ぶ人が全体の約 77%を占めて最も多く、次いで「河川、池沼などの水辺景観と文化」が約 29%を占めた。

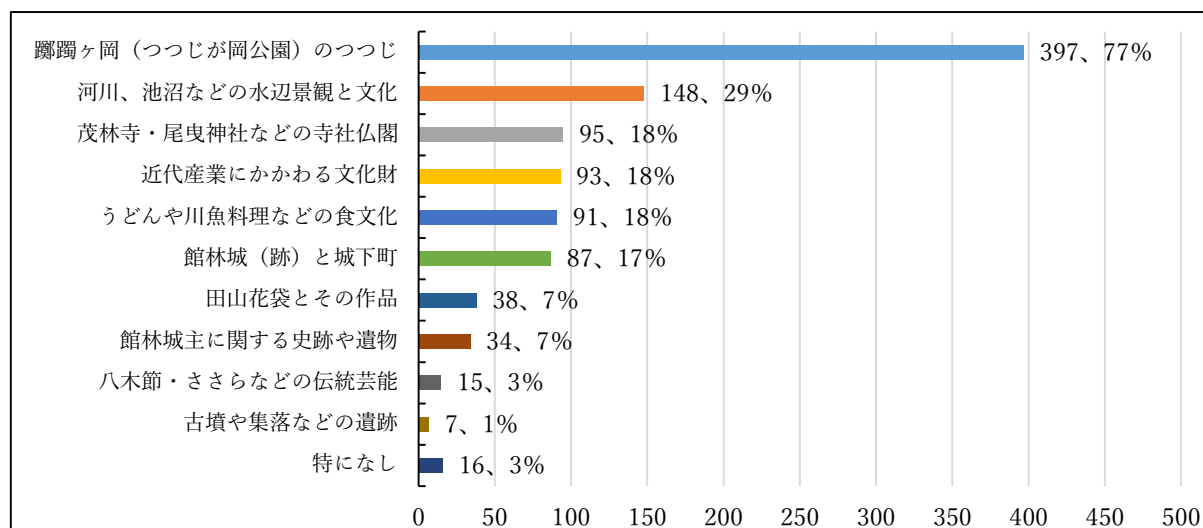
年齢別の傾向ではあまり大きな差は見られなかったが、年齢層が高いほど「館林城（跡）と城下町」や「館林城主に関する史跡や遺物」を選ぶ人がやや多かった。また、「河川、池沼などの水辺景観と文化」を選んだ年齢層は、20・30 歳代と 60 歳以上がやや多かった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向を見ると、「躑躅ヶ岡（つつじが岡公園）のつつじ」や「河川、池沼などの水辺景観と文化」は、興味・関心の間層（ややある・どちらともいえない人）から最も支持されていた。興味・関心が高い人ほど回答が分散したが、「近代産業にかかわる文化財」や「館林城（跡）と城下町」を選ぶ人は多かった。

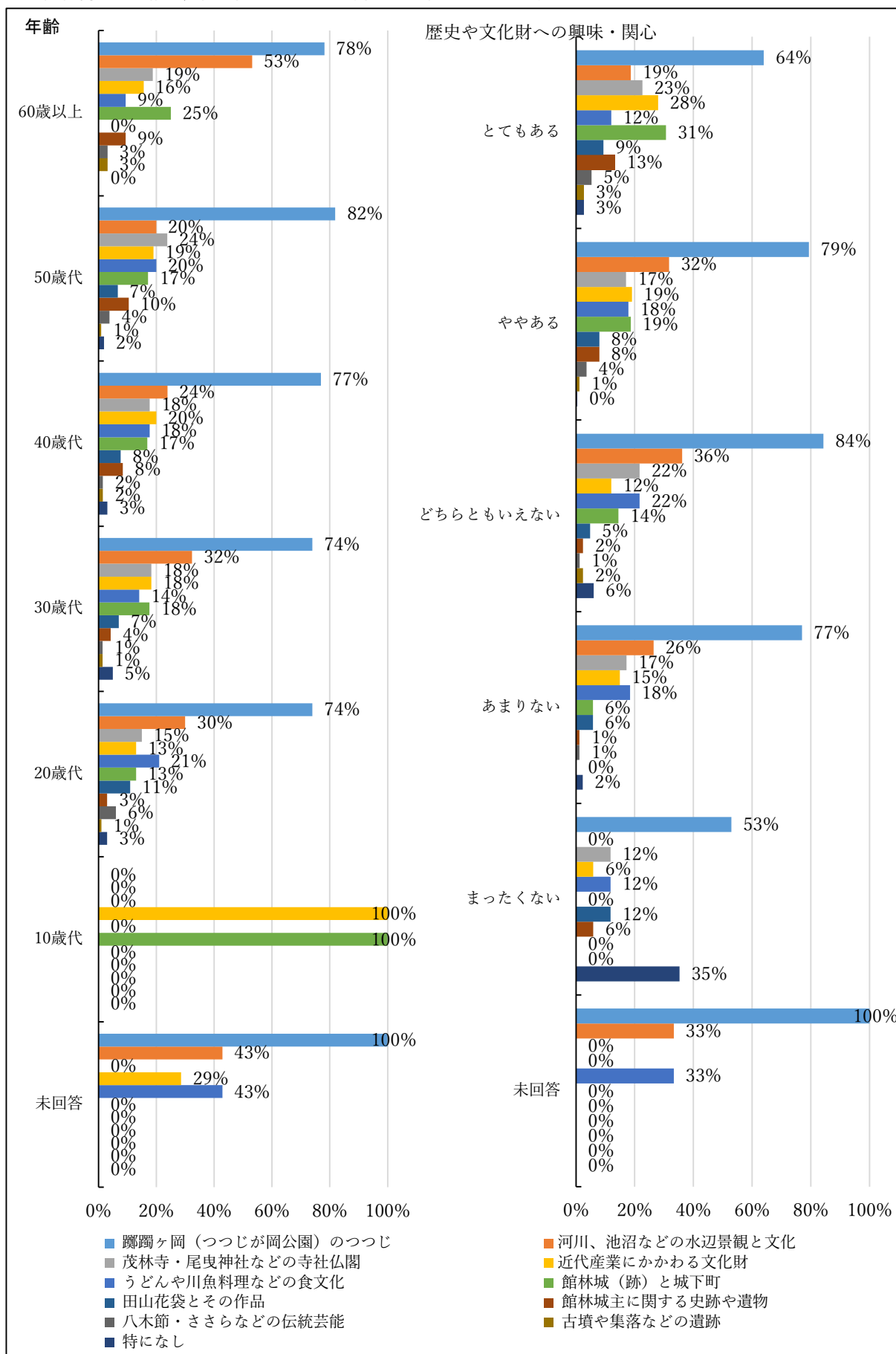
<その他の意見>

- ・ 館林手筒花火大会
- ・ 古墳時代、海辺であった館林に住みついた人がいたことや、その後の地殻変動や火山活動を経て、川や沼辺に住む人が絶えないこと
- ・ 楠木神社
- ・ 花柳界の名残り
- ・ 日本初の公害に立ち向かった田中正造及び協力者の存在。近代社会運動の原点であり、政府・資本への抵抗という生活をよくするための闘いが、目の前の生活のために正造を切り捨てるという帰結に至った、現代にも通じる市民の失敗と政府の支配方法は将来のために残すべき記録。

<館林市の歴史や文化財の中で特に大切と思うもの>



<回答者属性別の傾向/館林市の歴史や文化財の中で特に大切と思うもの>



設問 2-2 過去 2 年間訪れたことがある文化や文化財に関連する施設【該当する項目全て】

「つつじが岡公園」に訪れたことがある人が最も多く、全体の約 82%の人が訪れていた。次いで、「向井千秋記念子ども科学館」や「群馬県立館林美術館」が多く、約半数の人が訪れていた。

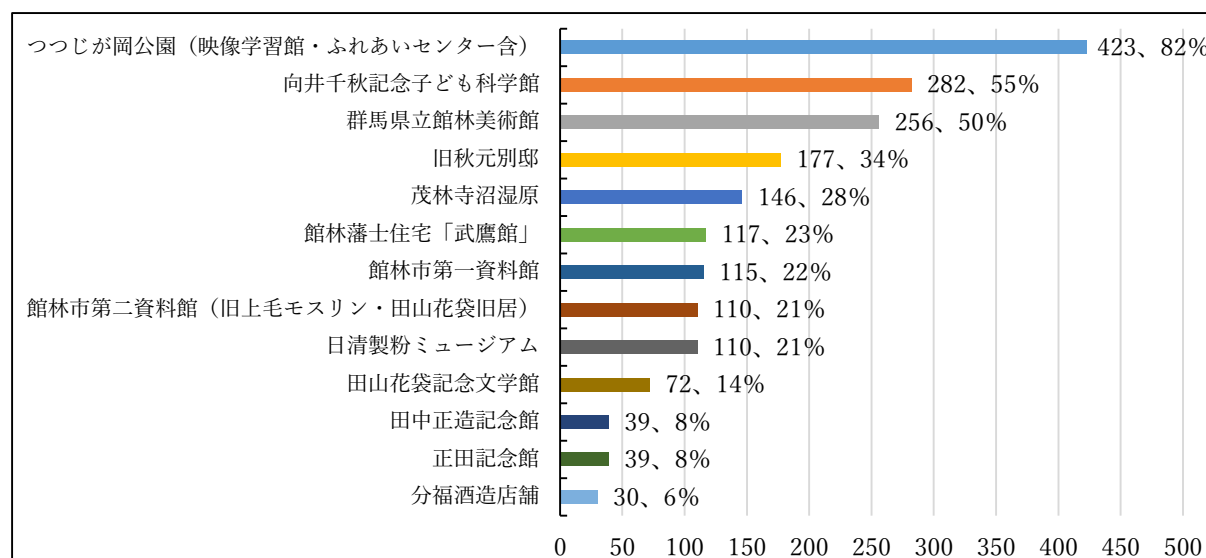
年齢別の傾向ではあまり大きな差は見られなかったが、50 歳代までは年齢層が高いほど各種施設へ訪れたことがある人がやや多かった。その傾向が特に顕著な施設は、「群馬県立館林美術館」、「旧秋元別邸」、「館林市第一資料館」だった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向を見ると、興味・関心が高い人ほど各種施設へ訪れたことがある人が多い。興味・関心の高さに関係なく、「つつじが岡公園」と「向井千秋記念子ども科学館」、「旧秋元別邸」、「正田記念館」と「分福酒造店舗」に訪れたことがある人の割合は同程度だった。

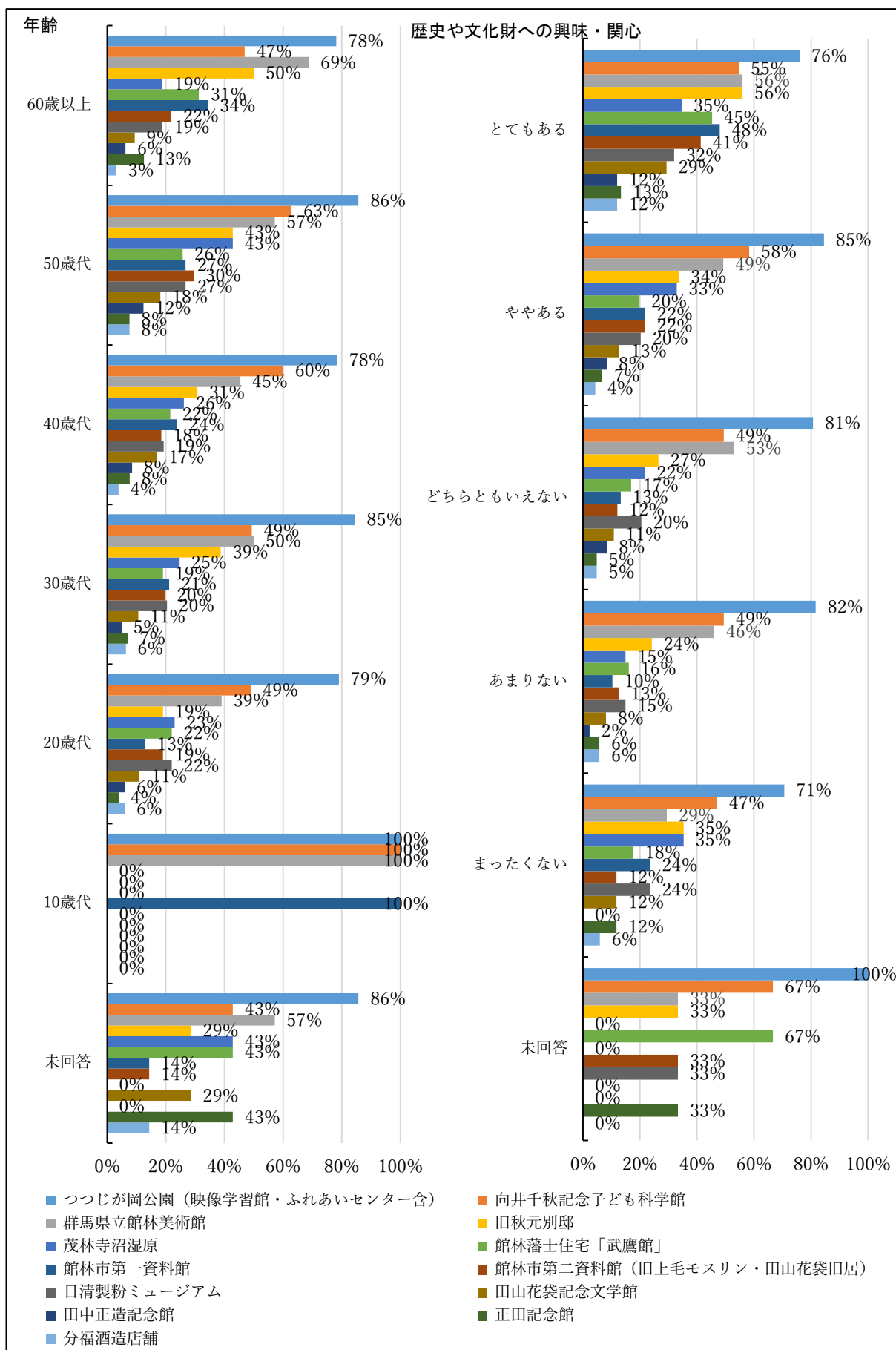
<その他の意見>

- ・ 茂林寺宝物館
- ・ 小栗の首の埋められた法輪寺、五宝寺内の聖天様とか
- ・ 旧館林二業見番組合事務所
- ・ 文化財登録されているものすべて。未登録文化財では、町なかに残る町家や農村地帯の水塚、鉄道・道路橋梁や各寺社、碑、沼、ほか。Menkoi ガールズなどのイベントが開かれるアゼリアモールもまた商店がモール化した現代を象徴し、功罪含めて史跡であるとする。

<過去 2 年間訪れたことがある文化や文化財に関連する施設>



＜回答者属性別の傾向/過去2年間訪れたことがある文化や文化財に関連する施設＞

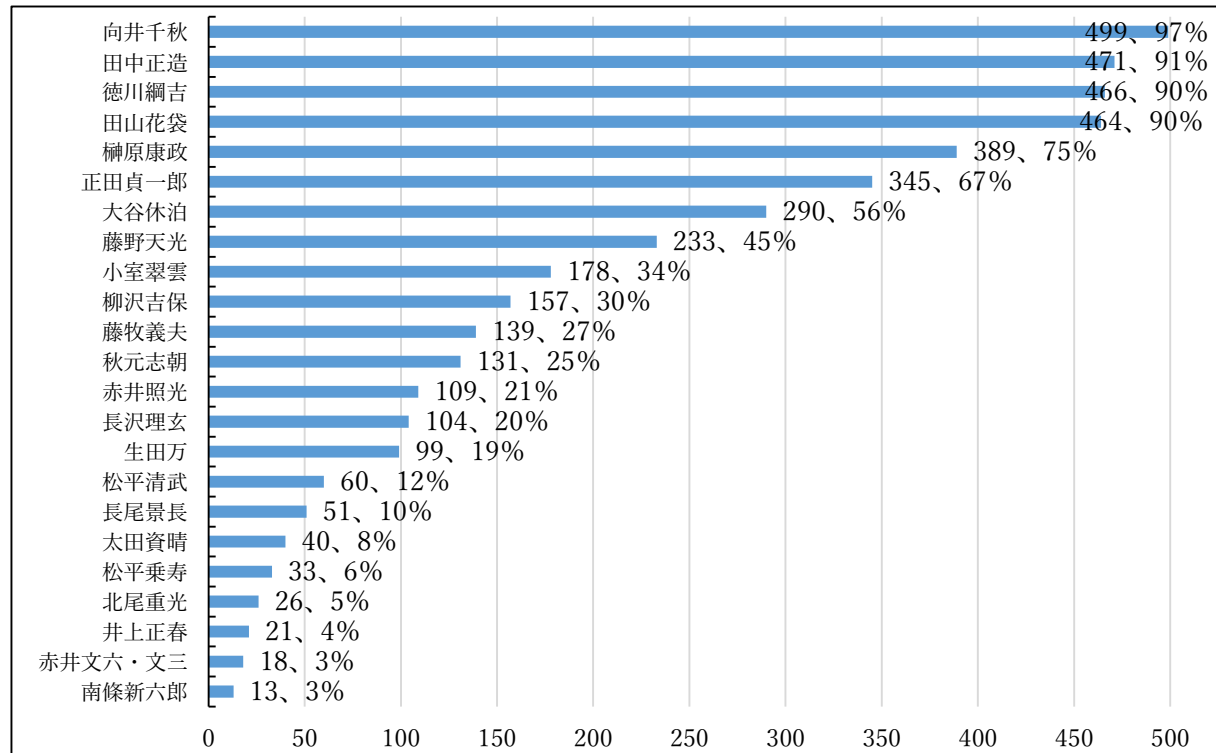


設問 2-3 知っている、館林の歴史に縁の深い・大きな影響を与えた人物【該当する項目全て】

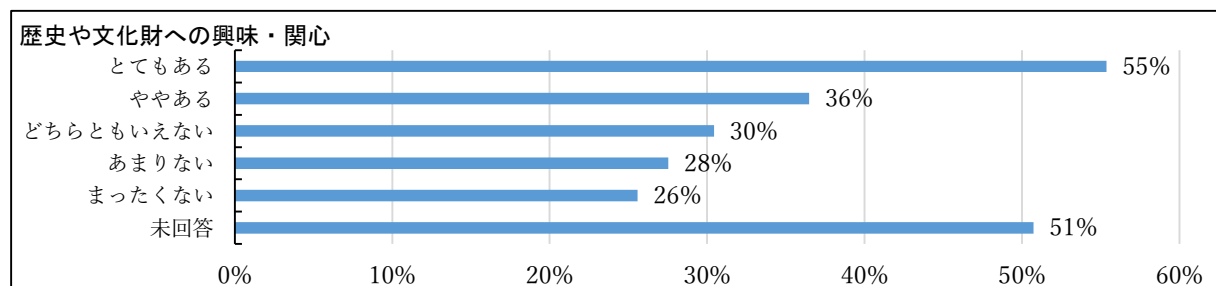
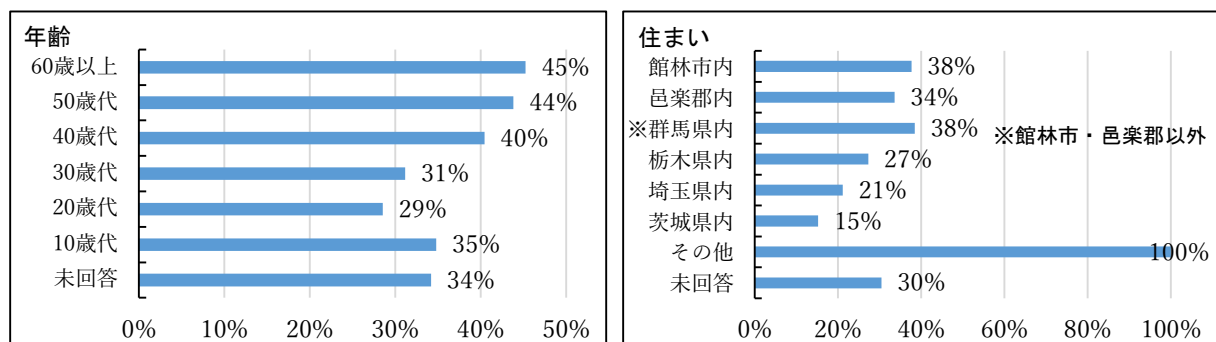
「向井千秋」、「田中正造」、「徳川綱吉」、「田山花袋」の順に選んだ人が多く、全体の9割以上の回答者が知っていた。

回答者の属性別に各人物の認知度の平均を見ると、年齢層が高くなるほど、歴史や文化財への興味・関心が高い層ほど、各人物の認知度が高かった。住まい別の傾向では、館林市を中心に群馬県内に住む人ほど、各人物の認知度が高かった。

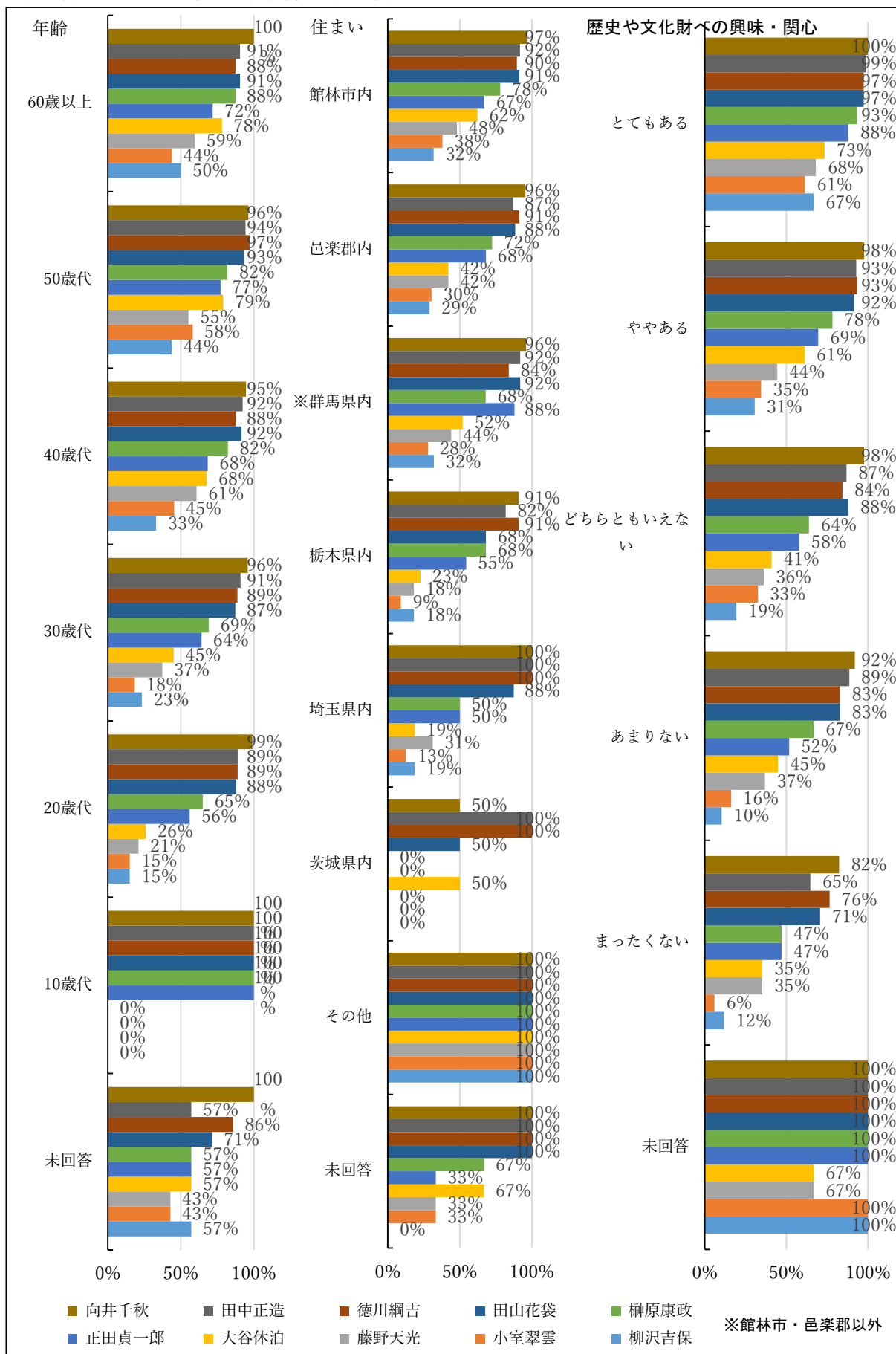
<各人物の認知度>



<回答者属性別、各人物の認知度の平均>



<認知度上位 10 名の人物の回答者属性別認知度>



設問 2-4 実際に見た・参加したことがある伝統的なまつりや行事、民俗芸能

【該当する項目全て】

見た・参加したことがあるまつり等で最も多かったのは「館林まつり」であり、全体の約 97% の人が見た・参加したことがある。

年齢別の傾向では、年齢層が高いほど各種まつり等を見た・参加したことが多い傾向にあったが、「館林まつり」「八木節」は年齢で差が無く、ほぼ同じくらいだった。

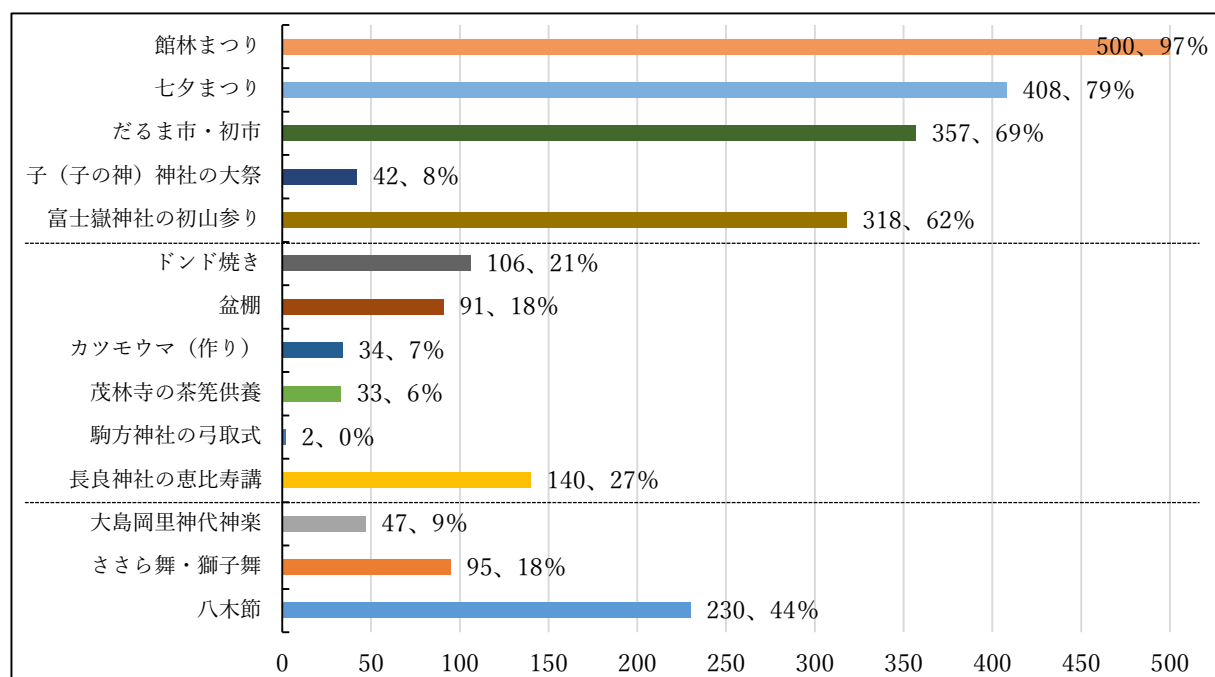
住まい別の傾向では、県内に住む人の方が見た・参加したことがある祭り等は多かったが、「館林まつり」「ささら舞・獅子舞」「八木節」は住まいが県内・外で差が少なかった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向では、興味・関心が高い人ほど見た・参加したことがある祭り等は多かった。「館林まつり」や「七夕まつり」は、興味・関心別で差は見られなかった。

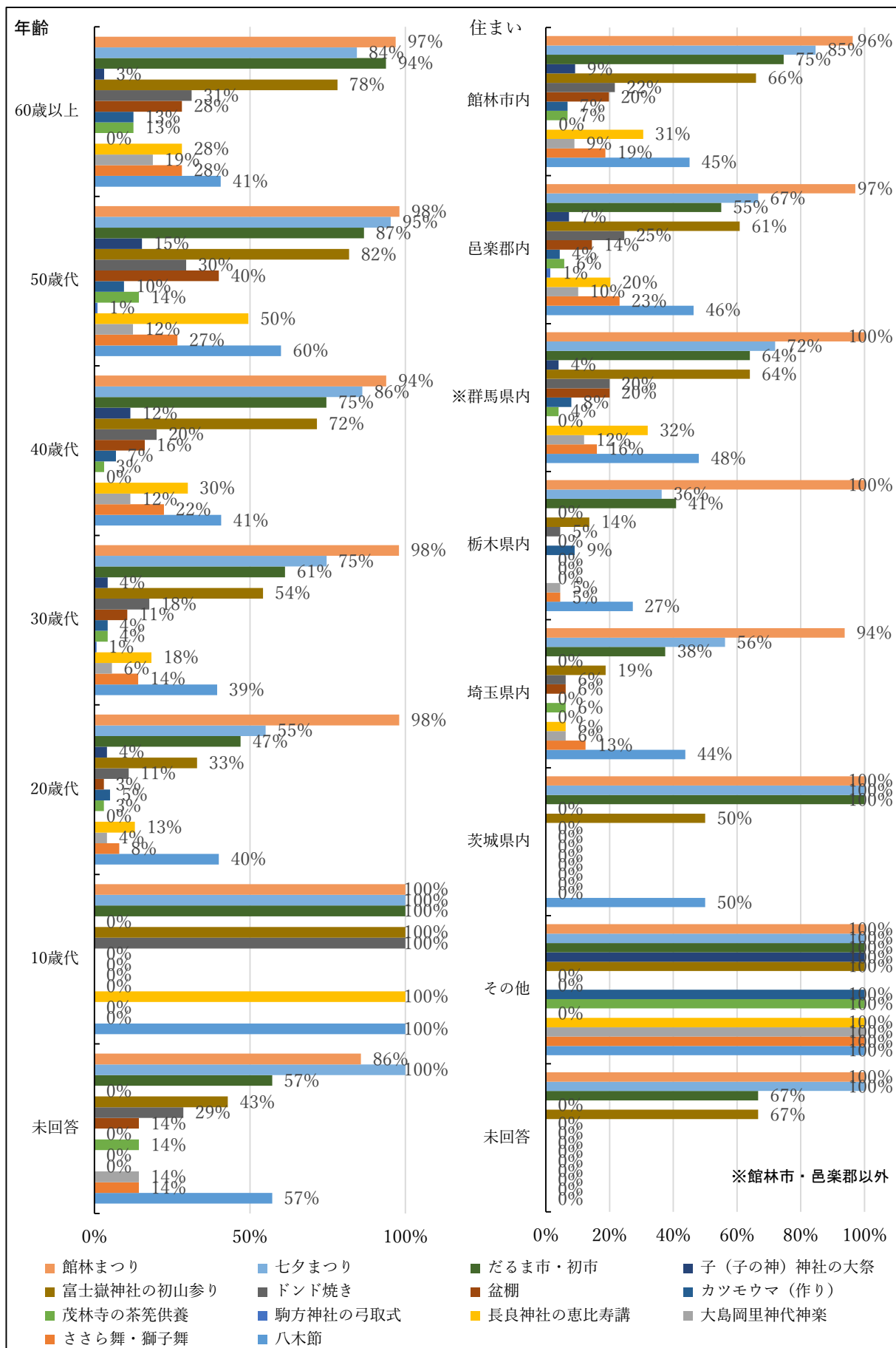
<その他の意見>

- ・ 富士原町富士嶽神社の火渡り（8の字に駆け回る疲れるもの）。常楽寺の斉燈護摩の火渡り。

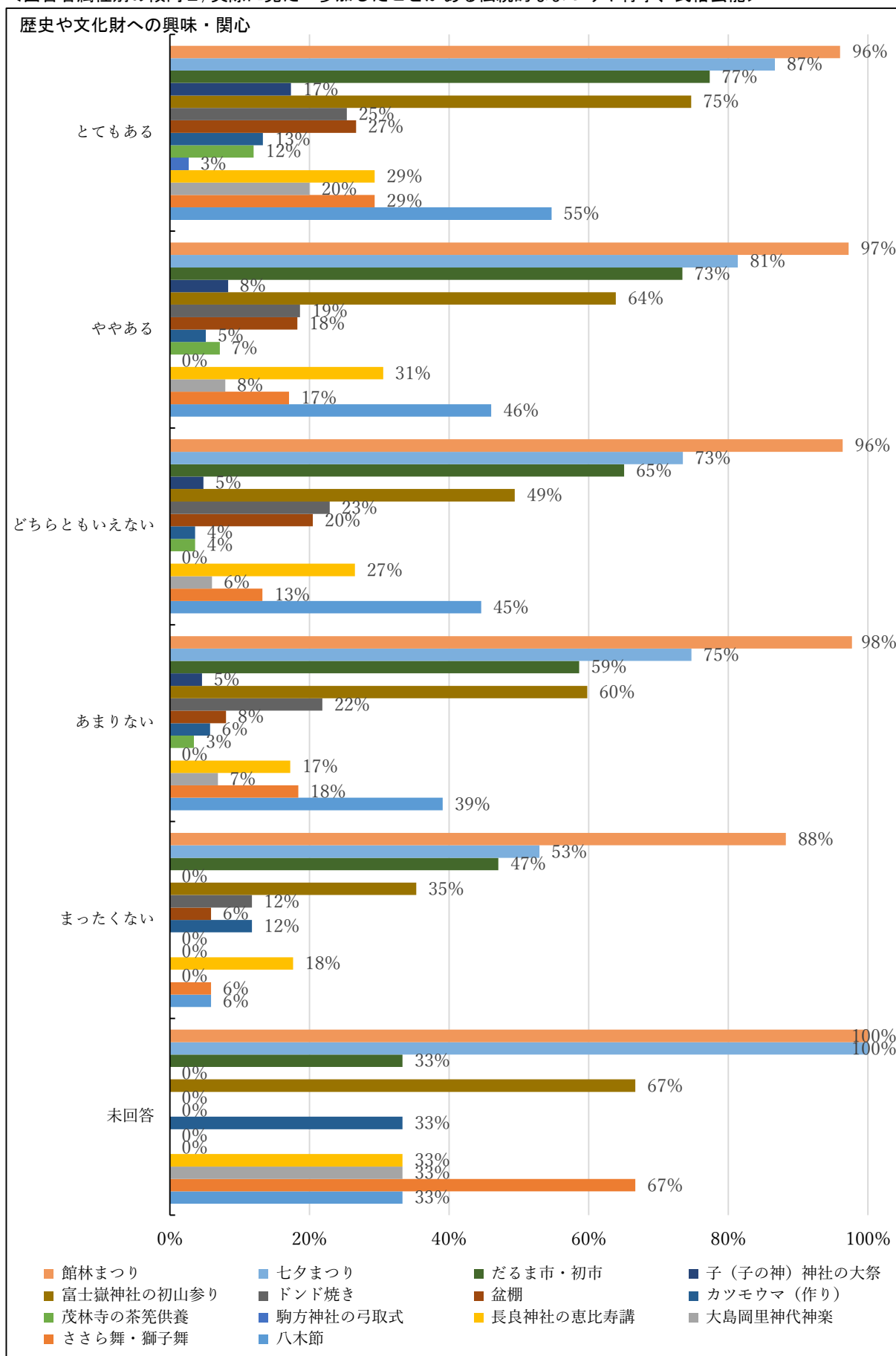
<実際に見た・参加したことがある伝統的なまつりや行事、民俗芸能>



<回答者属性別の傾向 1 / 実際に見た・参加したことがある伝統的なまつりや行事、民俗芸能>



<回答者属性別の傾向 2 / 実際に見た・参加したことがある伝統的なまつりや行事、民俗芸能>



設問 2-5 実際に食べたことのある伝統的な食文化【該当する項目全て】

選択肢にある食文化の中では、館林土産にもなっている「麦落雁」が最もよく食べられ、全体の約 87% が食べたことがあると回答した。次いで、川魚料理の「鯉のあらい」や「ナマズの天ぷら・タタキアゲ」が続き、回答者の約 7 割が食べたことがあった。

年齢別の傾向を見ると、年齢層が高いほど各食文化を食べたことのある人が多かった。特に、50 歳代以上と 40 歳代以下で食べたことがある人の割合で大きな差（20% 以上）が見られたのは「麦ようかん」、「鮎のあらい」、「鯉こく」、40 歳代以上と 30 歳代以下とでは「スミツカレ」だった。「カルメ焼き」は年齢層の違いであまり差が見られなかった。

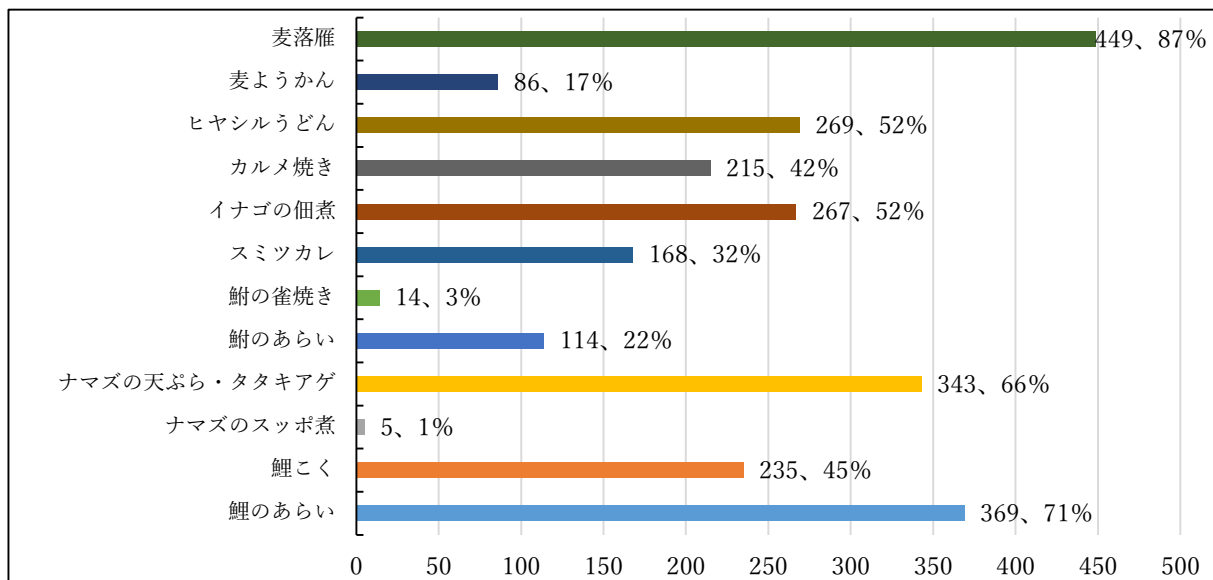
住まい別の傾向では、県内に住む人の方が伝統的な各食文化を食べたことのある人が多かったが、「ヒヤシルうどん」、「カルメ焼き」、「イナゴの佃煮」、「ナマズの天ぷら・タタキアゲ」は住まいが県内・外で差が少なかった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向では、興味・関心が高い人ほど各食文化を食べたことのある人が多かったが、あまり大きな差は見られなかった。

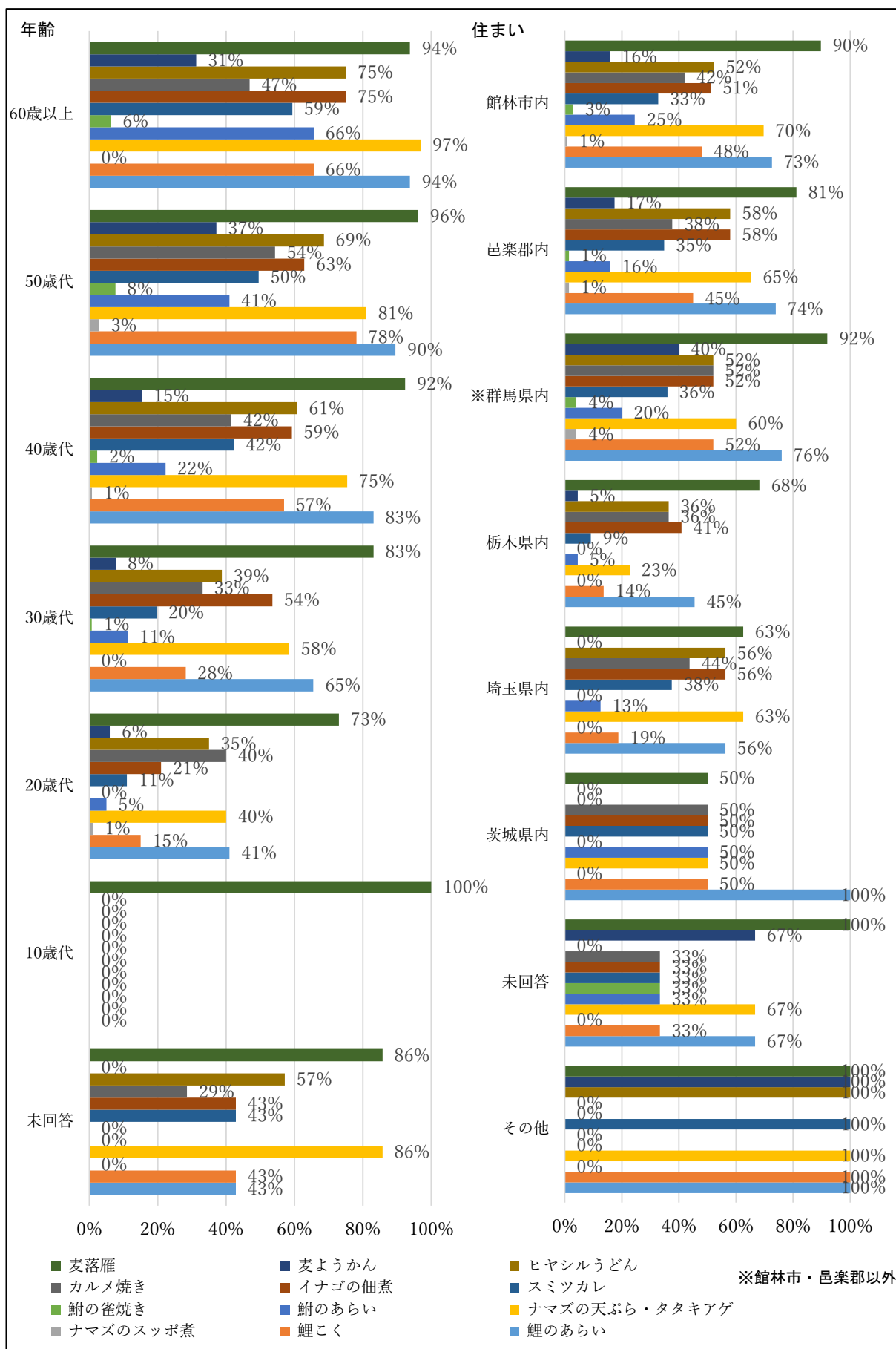
<その他の意見>

- ・ 焼きまんじゅう、すいとん、鮎の甘露煮、小魚の甘露煮、モツ煮が飲食店にあるのは伝統ではなくても珍しく感じる。ひもかわやヒヤシルに限らずうどんを非常によく食べるのも不思議。ウナギも板倉町のものより苦みが少なく比較的品のある味わいが多く特徴あるものに感じる。

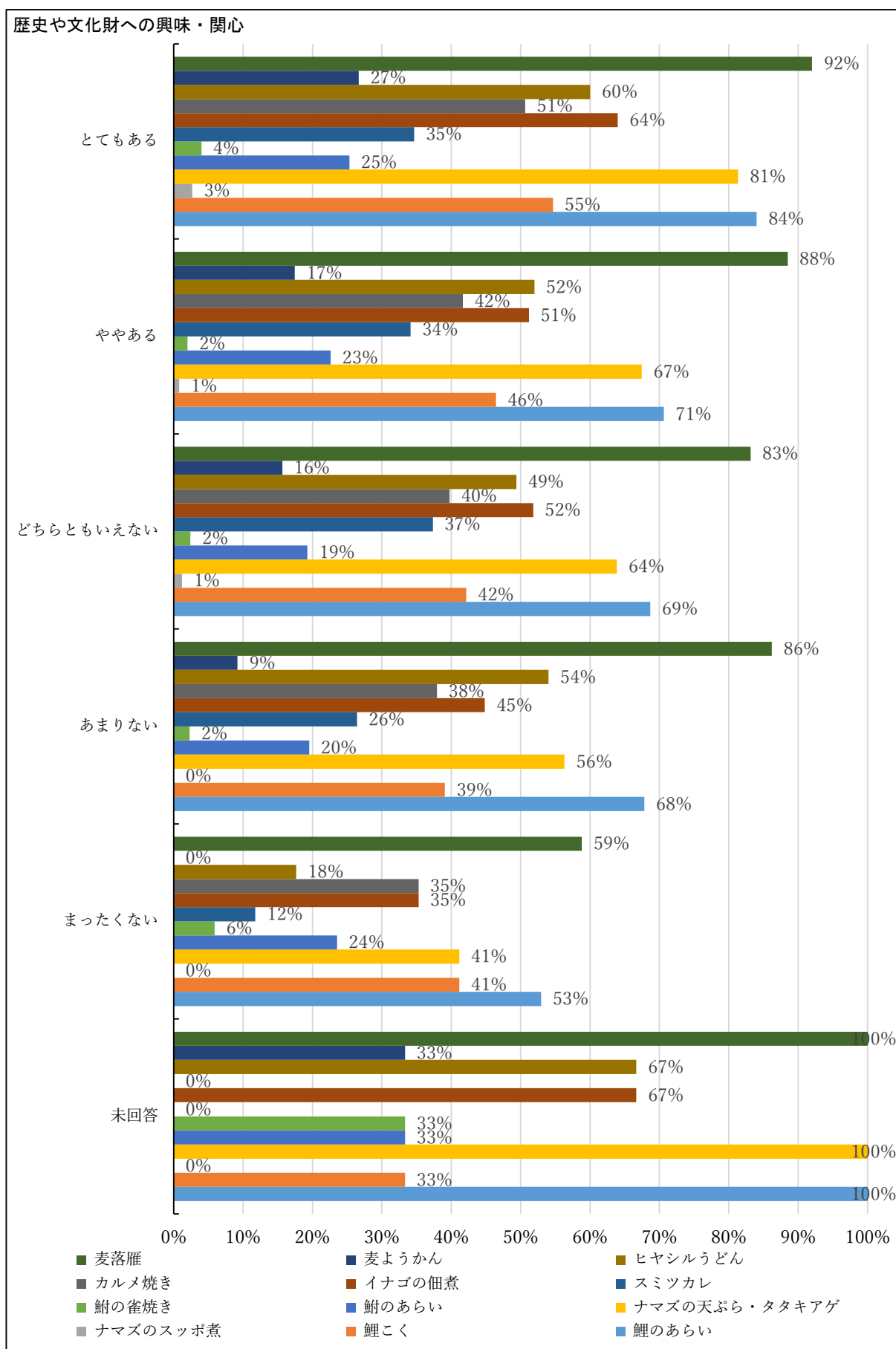
<実際に食べたことのある伝統的な食文化>



<回答者属性別の傾向 1 /実際に食べたことのある伝統的な食文化>



<回答者属性別の傾向 2 /実際に食べたことのある伝統的な食文化>



設問 4-1 文化財の保護と活用のバランス

「積極的な活用を優先し、一定の保護も行う」と回答した人が最も多く、半数近くを占め、次いで「保護を優先とするが、一定の範囲で活用も行う」とする人が多かった。保護よりも活用を重視する人がやや多い結果となった。

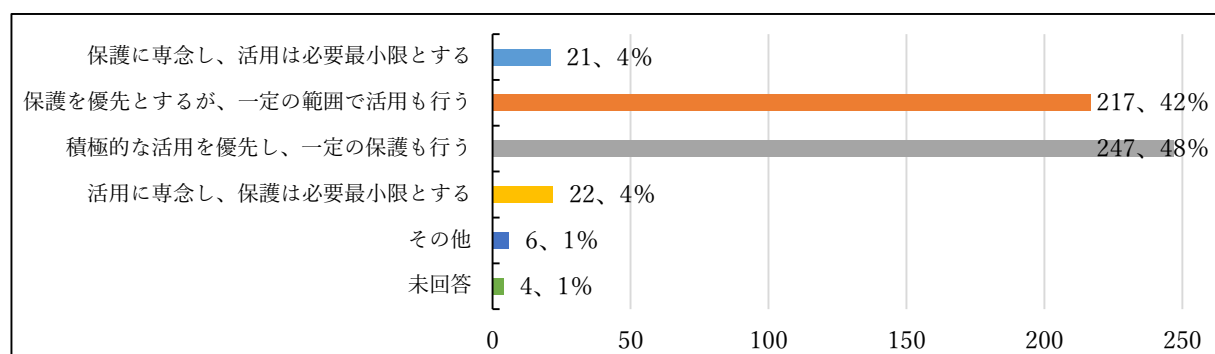
年齢別の傾向を見てみると、20・30 歳代と 60 歳以上だと「積極的な活用」「活用に専念」といった活用重視の意見を選ぶ人が多かった。40・50 歳代は「保護を優先」「保護に専念」といった保護重視を選ぶ人がやや多く、半数以上を占めた。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向では、興味・関心の程度の差で、あまり大きな違いは見られなかった。興味・関心が「とてもある・まったくない」人は活用重視の意見を選ぶ人が多く、6 割近くの人が選んだ。

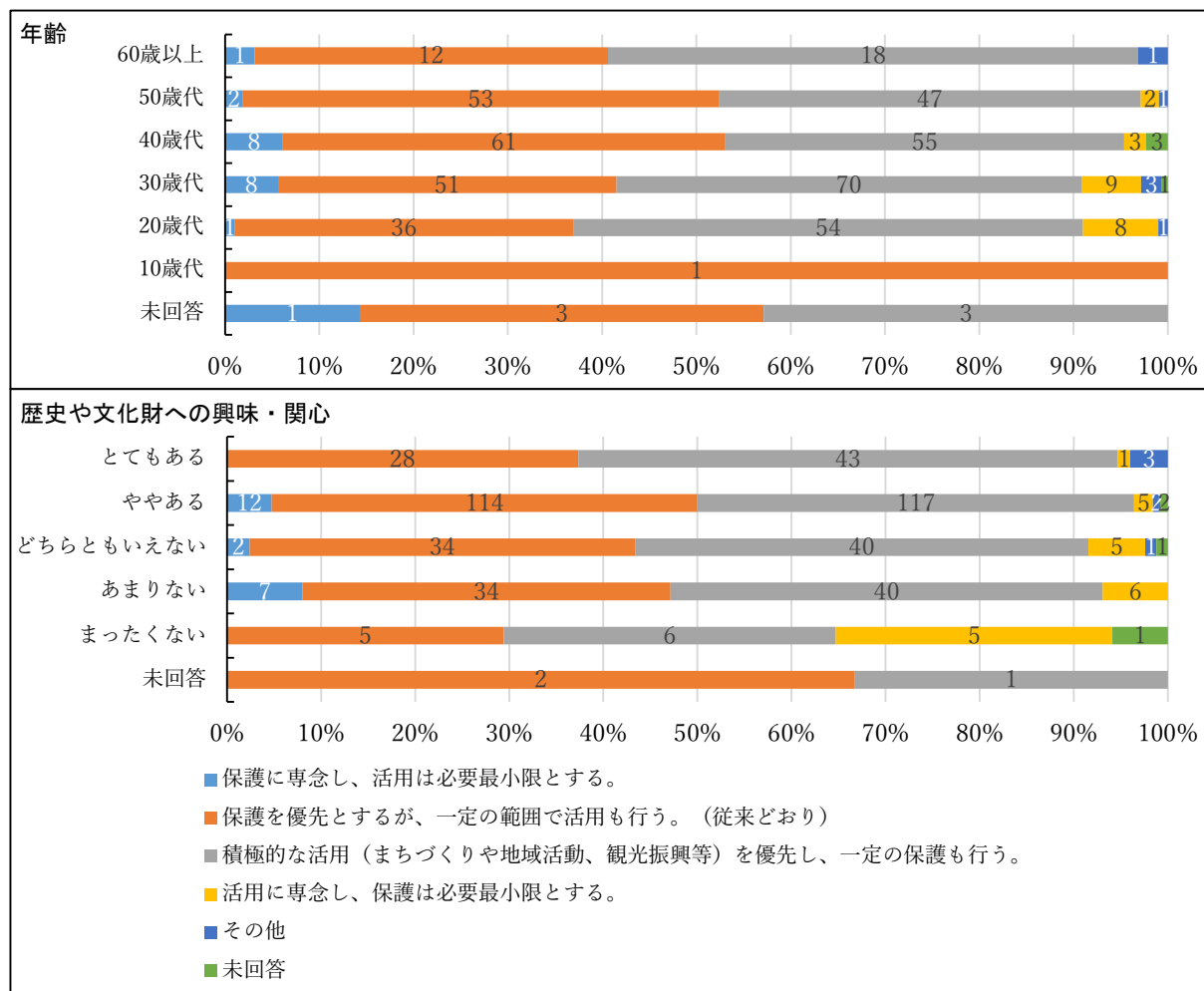
<その他の意見>

- ・ 現存の文化財は保護を最優先しながら一定の範囲で活用し、昔の街並みや城跡などの復元も積極的に行う。
- ・ 個々の文化財の状態・活用方法により個別に検討。
- ・ 文化財ごとに異なると考える。
- ・ 積極的な活用を基本としつつも、手を付けない・そっとしておいた方がいいもの（寺社等）など、事前にプランを立てたうえで活用を図る。建物などは歴史関係でなくてもイベント会場としてより使ってもらいたい。考えすぎて活用しないくらいならまずは市民の意見を聞く。
- ・ 保護と活用は対立する概念でしょうか。保護も活用も積極的に行うことが良いと思います。

<文化財の保護と活用のバランス>



<回答者属性別の傾向/文化財の保護と活用のバランス>



設問 4-2 文化財の「指定」・「登録」を今後どのようにすべきか

「現状の指定文化財の維持に努めるべき」とする人が最も多く、全体の半数近くを占めた。次いで、「登録制の新たな文化財制度を新設する」が約 27%を占めた。

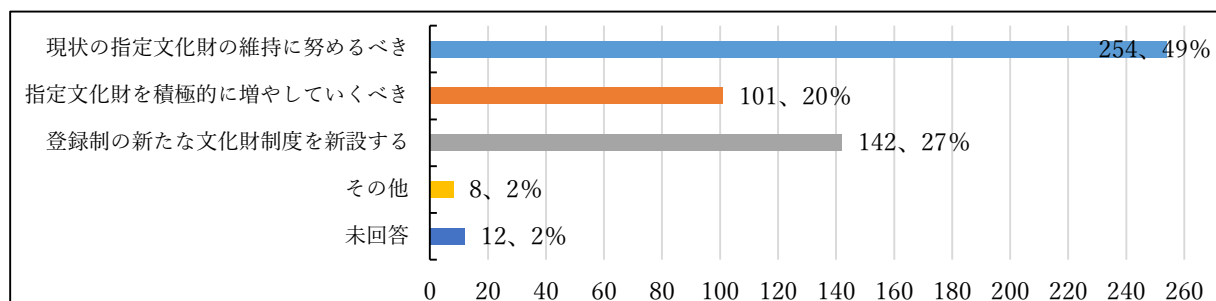
年齢別の傾向を見ると、「現状の指定文化財の維持に努めるべき」とする人は、40 歳代・60 歳以上に多かった。「登録制の新たな文化財制度を新設する」する人は、年齢別に差はあまり見られなかった。「指定文化財を積極的に増やしていくべき」とする人も年齢別にあまり差がなかったが、40 歳代では他の年齢層に比べて少なかった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向を見ると、興味・関心が「どちらと说不ない・あまりない」人ほど「現状の指定文化財の維持に努めるべき」という意見を選ぶ人が多く、6 割近くを占めた。興味・関心が「とてもある・ややある」人は、「登録制の新たな文化財制度を新設する」とする人がやや多かった。「指定文化財を積極的に増やしていくべき」とする人は、興味・関心が高い人ほど多く選ぶ傾向があった。

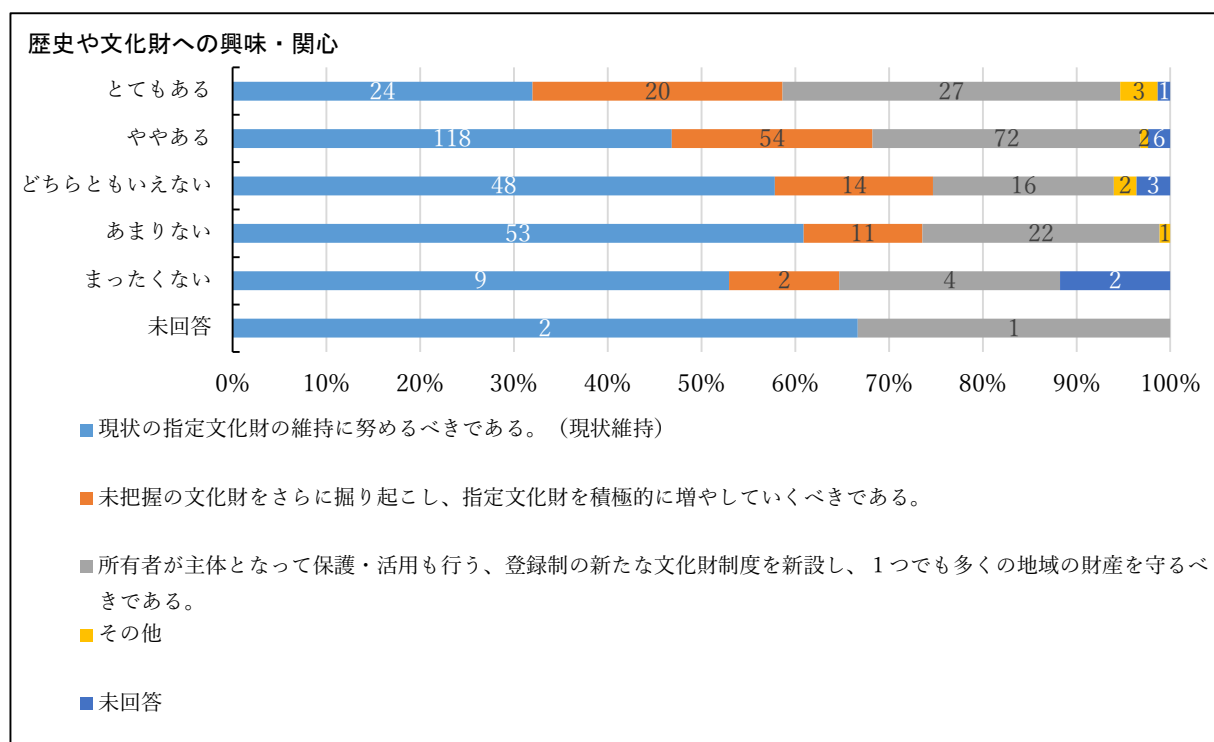
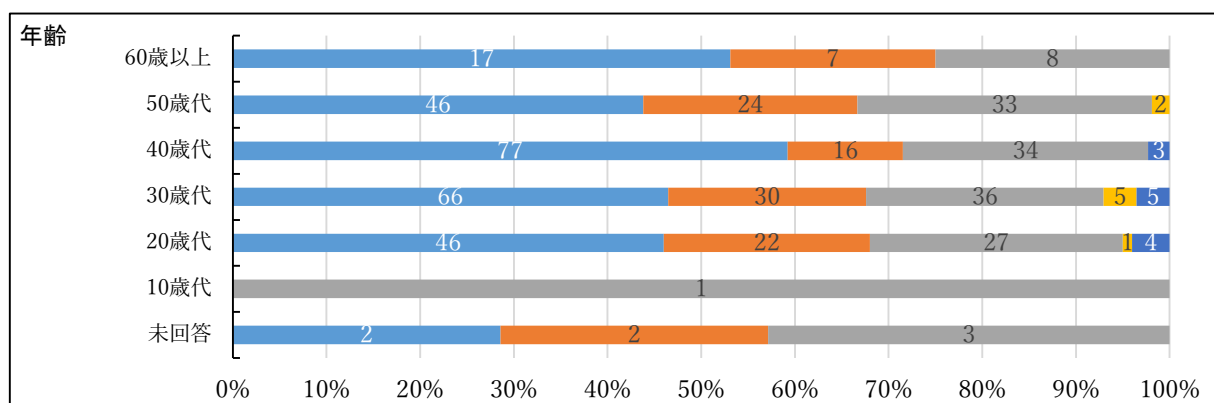
<その他の意見>

- ・ 登録文化財保護のために、行政が資金援助できる制度を充実させる
- ・ 人口の減少やそれに伴う地域コミュニティの活動衰退、2025 年問題を優先すべき
- ・ クラウドファンディングを利用して話題作りで PR しつつ（当事者意識をもった）支援者を増やしていくとよいと思います。
- ・ 力をいれて維持するものとそうでないものを仕分けて現状より更に負担を減らすべきだと思う。
- ・ 所有者主体の新登録制度を新設すべきと考えるが、まずはより多くの市民が文化財に理解がないと制度が形骸化する。システムの整備と同時並行で文化財のこれまでとは一線を画す怒涛の普及啓発が必要。地域の財産は可能な限りで残し、不可能なら記録だけでも残るようにする。
- ・ 文化財の保護・活用に関する知識がないため意見を言えない。
- ・ 文化財の知識に乏しく、よくわからない。

<文化財の「指定」・「登録」の今後>



<回答者属性別の傾向/文化財の「指定」・「登録」の今後>



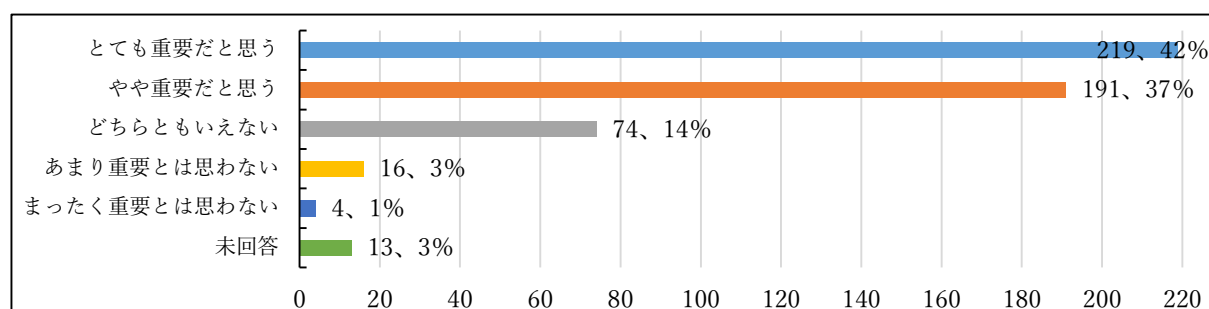
設問 4-3 文化財や遺跡、歴史的建造物の保護・活用事業、関連施設の運営事業の必要性

「とても重要・やや重要だと思う」人が回答者全体の約8割を占めた。

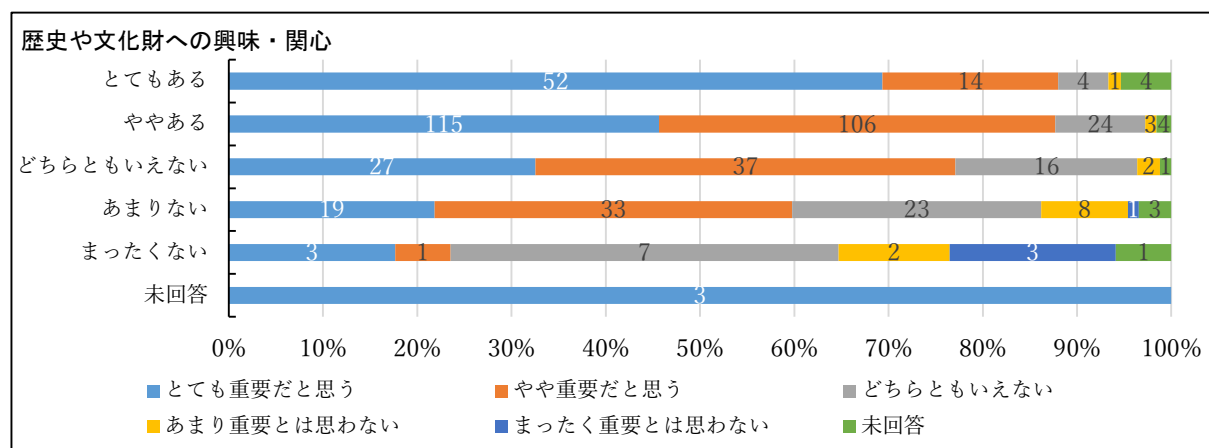
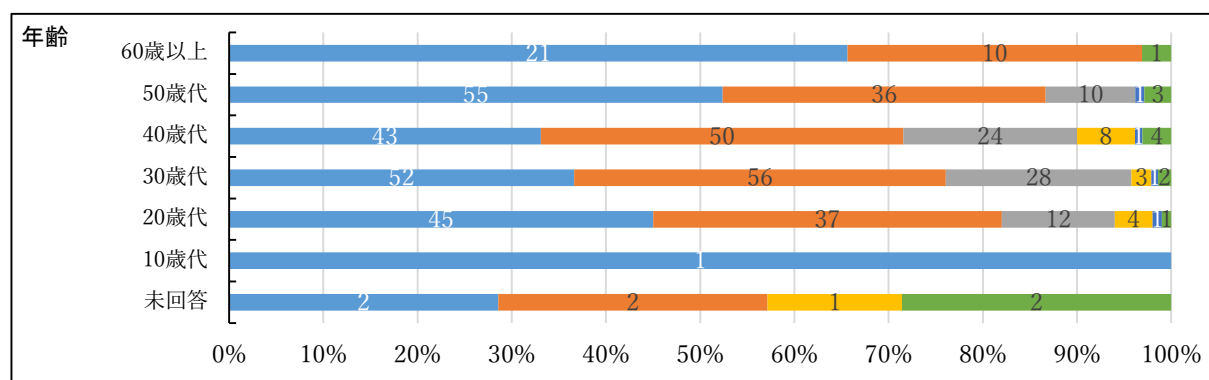
年齢別の傾向を見ると、50・60歳以上の方は「とても重要・やや重要だと思う」を選ぶ人が多く、約9割近くを占めた。「どちらともいえない～重要とは思わない」を選ぶ人は、30・40歳代に特に多かった。

歴史や文化財への興味・関心別の傾向では、興味・関心が高いほど「とても重要・やや重要だと思う」を選ぶ人が多くなる傾向が見られた。

<文化財や遺跡、歴史的建造物の保護・活用事業、関連施設の運営事業の必要性>



<回答者属性別の傾向/文化財や遺跡、歴史的建造物の保護・活用事業、関連施設の運営事業の必要性>



設問 4-4 文化財や歴史遺産の活用方法についてのアイデア・意見

<現状に対する意見>

- ・ 保護か活用かで意見は分かれると思うが、時代の流れに合わせて積極的に活用してもらいたい。
- ・ 文化財は一度失ってからでは元に戻すことができない。保護は重要だが、今後の人口や税収減少に対応できるよう、人を呼べるような活用方法を考えていかなければならない。
- ・ 歴史遺産などは観光と連動して保全維持し活用していくことが重要。
- ・ 保存と活用のバランスが難しいと思うが、リピーターが増えて館林市のファンになってくれるような歴史資源及び観光資源になっていけば良い。
- ・ 歴史を重んじるのも大切だが、一方で維持管理コストがかかるのも事実なため、観光などに絡めた活用方法が見い出せないものについては、取捨選択していく必要がある。
- ・ 館林城を再建するなど言わず、現在ある文化財を大切に守っていくことが重要。
- ・ 全てを平均するのではなく、必要最小限に力をいれたほうが良いと思う。
- ・ 保存がおざなりにならないよう、専門家の配置や育成等の配慮を。
- ・ 過去の文化を掘り起こし保護、活用することも大切だが、今後新しい文化を創り出すことも重要。
- ・ 本市の文化財そのものは価値あるものだが、まずは日本遺産の認定が本市にとってプラスになるような街づくりが必要。
- ・ 他県・他市からどう見られているかを知り、気付かされたことを活かす、今を変える勇気を市民がもつ。
- ・ 多くの市役所職員にある「文化財＝お荷物、迷惑」「つつじが岡公園課や文化財係がやればいい」という意識を変えることが第一。今後の館林市をどんなまちにしたらいいのか、職員皆が真剣に考える体制を作るべき。
- ・ 先ずは、何が何故市にとって重要な文化財や歴史遺産かを整理し、職員、市民、所有者の文化財等への意識を高める必要がある。

<活用・整備方法のアイデア>

- ・ どんどん活用したほうが良い。文化財の基準みたいなものがあるとよい。
- ・ 歴史の小径の終着点である土橋門周辺、特に5号道路沿いの土塁は立派なものだが、整備やPRが不足していると思う。
- ・ 城下町館林を創造するために、現存の文化財の保護、未発掘（発見の）文化財の掘り起こし、街並みや歴史的建造物の復元や整備などを行う。/館林城の復元。
- ・ 文化財・歴史遺産の多く集まる地域は、一帯をその時代に統一してみても。（例：川越等）
- ・ 子どもたちが体験できる環境や施設が増えると地元だけでなく観光資源としても活用できるのではないかと。例えば、館林紬で布草履作り、つつじを使った染め物体験、野外焼きまんじゅう作りなど食も含めた体験型施設が欲しい。

- ・ 歴史の小径のようなルートをほかにも策定して整備し、複数の史跡等をまわれるようにする。徒歩で厳しいルートはバスなどを出してたまにでも簡易ツアーができるようにする。
- ・ 文化財（建造物）を活用した芸術文化係が行っている自主事業（人気歌手のコンサート）。
- ・ 旧秋元家臣の家々に所蔵されている品物のデータベースを作成し、資料館等で紙媒体あるいはコンピュータ端末で公開（ネット公開は望ましくないと考える）。

<PR方法のアイデア>

- ・ もっと積極的に市内外に発信していく。観光やまちづくりと併せた一体的なPRが必要。
- ・ 資料館以外の施設等（県立美術館等）を利用し、市民や観光客に周知するため、本市の文化財や歴史遺産の展示を定期的に開催。
- ・ 市民、観光客を対象としたツアーの開催。
- ・ 田山花袋記念文学館での「花袋のイラスト化」のように、綱吉をイラストにするなど市民になじみやすいイラストでプロモーションする。
- ・ プロモーション活動を行って、漫画やアニメや映画の中の設定に取り入れてもらう（館林市には有名なアニメーション映画監督もいる）。/地元を舞台とした、文化財や歴史遺産が登場するドラマやアニメーションの誘致。/ロケ地としての活用。/フィルム・コミッションの設置。
- ・ まち映画・プロジェクションマッピングなど。
- ・ 城下町館林の歴史を楽しく伝えられるような催しを文化振興課ボランティアや館林市文化協会などにて実施する。
- ・ 館林歴史紹介ビデオを作り広く内外に発信する。映像記録として将来に残す資料にもできる。

<財源確保の方法のアイデア>

- ・ 文化財を積極的に活用できる部署を新設し、リノベーション手法を使って民間による収益事業を推進する。エリア価値を上げ、地価の上昇ひいては固定資産税の増収により、持続可能な行政運営を進める。
- ・ 館林市文化支援隊（スポンサー）をクラウドファンディングのような形態で募る。

<その他のアイデア>

- ・ 館林のまちなかは、城下町当時のままの道筋や道幅のまま発展してきているので、城下町図と重ねてみるととても面白い。最近では、都内で「江戸古地図」等の古地図本でまち歩き等も行われているので、要素として取り入れるのはどうか。
- ・ それぞれの文化財の歴史的な背景について、見やすく、分かりやすい看板・サイン等が設置されていると、興味を持つ人が増えるのではないか。

- ・ 活用方法を「観光資源として」と限定した場合、他の観光名所でも、トイレが清潔な状態にあるか否かが非常に重要。
- ・ 直接的ではないが、宿泊施設などの観光インフラが充実していないため、文化財や歴史遺産の活用が限定的になってしまっている。
- ・ 女性や中高年がくつろげる景観がよいレストランやカフェがあるといい。美味しくて見栄えもよいメニューが必須。「食」が充実しているところに人が集まっている。
- ・ 優良な指定管理者をひろく受け入れるために業務仕様書を厳格にせず、集客のために新たな提案を求めるような公募を行う。太田市美術館・図書館のような運営基本計画策定を検討する。
- ・ 指定管理者制度など、民間に任せた方がよい。研究も市主体でなく、大学や研究機関に任せた方がよい。

館 林 市 歴 史 文 化 基 本 構 想

編集・発行 館林市教育委員会事務局文化振興課文化財係
(館林市文化会館内)

〒374-0018 群馬県館林市城町3番1号

TEL : 0276 (74) 4111・FAX : 0276 (74) 4113

印刷 上武印刷株式会社

発行年月日 平成31年(2019)3月



文化財愛護シンボルマーク

<http://www.city.tatebayashi.gunma.jp/bunka/>



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)